

縮尺 20 万分の 1
土地分類図付属資料

北海道Ⅶ（宗谷・留萌支庁）

昭和 54 年

国土庁土地局

縮尺 20 万分の 1 土地分類図付属資料

目 次

利用者のために

A 土地条件等の概要の部

1 地形地域区分とその性状等の概要	7
2 表層地質の分布とその性状等の概要	19
3 土壌の分布とその性状及び生産力可能性等の概要	20
4 土地利用可能性分級等の概要	26
4-1 土地利用現況の概要	26
4-2 土地利用可能性分級の地域別概要	29

B 統計の部

1 土地利用現況	34
1-1 市町村別土地利用現況面積内訳	34
2 自然的土地条件	36
2-1 市町村別傾斜区分別面積内訳	36
2-2 市町村別標高区分別面積内訳	37
2-3 市町村別地形区分別面積内訳	38
2-4 市町村別表層地質分布面積内訳	40
2-5 市町村別土壌統計群分布面積内訳	44
3 土地利用可能性分級	50
3-1 市町村別土地利用可能性分級別面積内訳	50
3-2 土地利用可能性分級と自然条件との関連	52
3-2-1 土地利用可能性分級と地形区分との関連	52
3-2-2 土地利用可能性分級と傾斜区分との関連	52
3-2-3 土地利用可能性分級と標高区分との関連	54
3-2-4 土地利用可能性分級と土壌生産力可能性との関連	54
3-3 土地利用可能性分級別主要地域の概要	56
3-4 市町村別土地利用可能性分級別内訳	58

利用者のために

I 編集方針

この付属資料は、縮尺20万分の1土地分類図についての概要説明と、面積統計とに区分されるが、面積統計については、以下の要領により作成したものである。

例えば、2-1表「市町村別傾斜区分別面積内訳」は、「傾斜区分図」(オーバーレイ)を市町村の行政区画単位に面積測定して作成したものであり、3-2-1表「土地利用可能性分級と地形区分との関連」については、「土地利用可能性分級図」及び「地形分類図」を用い、前者の類地パターンと、後者の表形区分のパターンとを重ね合わせて面積を測定し、両者の面積的関連を把握して作成したものである。

なお、縮尺20万分の1土地分類図の各図幅と、付属資料の統計表との関連を示すと次表のとおりである。

統計表の名称	1 地形分類図	2 起伏量・谷密度図	3 傾斜区分図	4 表層的地質図	5 表層垂直的地質図	6 土壌分類図	7 土壌生産力可能性図	8 土地利用可能性分級図	9 土地利用可能性分級図	10 標高区分図	11 道統計資料等
1-1 市町村別土地利用現況内訳											○
1-2 D. I. Dおおむね10万人以上の都市の土地利用現況の内訳											○
2-1 市町村別傾斜区分別面積内訳			○								
2-2 市町村別標高区分別面積内訳									○		
2-3 市町村別地形区分別面積内訳	○										
2-4 市町村別表層地質分布面積内訳				○							
2-5 市町村別土壌統群分布面積内訳						○					
3-1 市町村別土地利用可能性分級別面積内訳									○		
3-2-1 土地利用可能性分級と地形区分との関連	○								○		
3-2-2 土地利用可能性分級と傾斜区分との関連			○						○		
3-2-3 土地利用可能性分級と標高区分との関連									○	○	
3-2-4 土地利用可能性分級と土壌生産力可能性等級区分との関連							○		○		
3-3 土地利用可能性分級別主要地域の概要	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3-4 市町村別土地利用可能性分級別内訳									○		○

II 利用上の留意事項

土地分類図の各図から測定された項目別パターンの面積値は、各図の図示表現の技術的な制約、即ち縮尺20万分の1土地分類図の場合には、最小図示単位として1Km²(図上5mm²)を限度としたため、実在の面積とは一致しない場合もあると考えられる。特に、パターンの小さい性格をもつ分類項目にあっては、やゝ少な目に数値が出る傾向がある。

したがって、この種の面積については、項目毎の絶対値を使用するのではなく、概括的な把握、ないし項目の構成比率等の利用に配慮されたい。

III 表中の記号について

「0」は数値が掲載単位に満たないもの

「-」は該当事実のないもの

「 」(空白)は編集時において資料がなく不明のもの

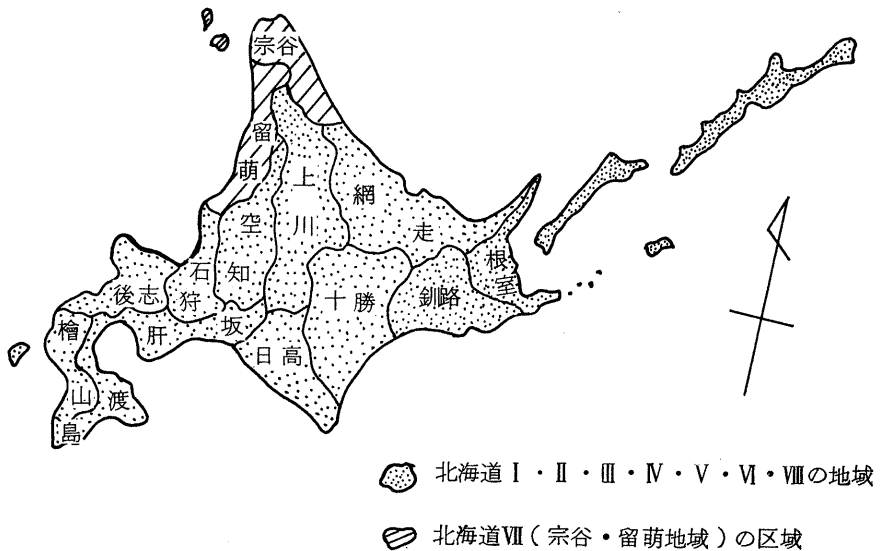
IV 調査機関一覧

調査項目	機 関 名	所 在 地
総括調整	北海道開発調整部	札幌市中央区北3条西6丁目 〒060-91 TEL 011-231-4111(内線2433)
地形分類	北海道教育大学 札幌分校(奈良部理) 函館分校(瀬川秀良) (総括) 岩見沢分校(野川 潔) 旭川分校(小杉健三)	札幌市中央区南24条西13丁目 〒064 TEL 011-561-4281 札幌市中央区南24条西13丁目 〒064 TEL 011-561-4281 函館市人見町22-4 〒040 TEL 0138-41-1121 岩見沢市緑ヶ丘 〒068 TEL 01262-2-1470 旭川市北門町9丁目 〒070 TEL 0166-51-6151
表層地質	北海道立地下資源調査所	札幌市中央区南11条西3丁目 〒060 TEL 011-511-0111
土 農 地 林 地 壤	(総括) 農林省北海道農業試験場 農林省林業試験場北海道支場 北海道立林業試験場	札幌市豊平区羊ヶ丘1番地 〒061 TEL 011-851-9141 札幌市豊平区羊ヶ丘1番地 〒062 TEL 011-851-4131 美唄市光球内町東山 〒079 TEL 01226-3-4164
土地利用現況	北海道開発調整部	札幌市中央区北3条西6丁目 〒060 TEL 011-231-4111(内線2433)
土地利用可能性分級	農林省北海道農業試験場	札幌市豊平羊ヶ丘1番地 〒061 TEL 011-851-9141

V 縮尺20万分の1土地分類基本調査のすすめ方

北海道を5ブロックに区分し、次表のスケジュールにより昭和47年度から昭和52年度の6年間で調査を行なった。

地区番号	調査年度	支庁名 (地域名)	面積	図幅区分	図幅単位別面積 (Km ²)
I	47~48	石狩	3,551(Km ²)	1	11,555 (Km ²)
		後志	4,302		
		胆振	3,702		
II	48~49	十勝	10,831	2	15,669
		日高	4,838		
III	49~50	空知	6,586	3	6,586
		上川	9,870	4	9,870
IV	50~51	渡島	3,726	5	6,581
		檜山	2,855		
		網走	10,687	6	10,687
V	51~52	宗谷	4,076	7	8,105
		留萌	4,029		
		根室	3,459	8	9,462
		釧路	6,003		
	47~52	計	78,515		78,515



A. 土地条件等の概要の部

1. 地形地域区分とその性状等の概要

1-1 宗谷地域

1-1-1 総説

宗谷地域は北海道の最北部経位置し、本島北部地域および礼文島・利尻島の両島嶼よりなる。

地形的には山地・火山地・丘陵地・台地・段丘・低地などの各種地形がそれぞれ小規模に分布しているが、とくに、これらのうちでも周氷河作用の影響を強くうけた丘陵性地形、ならびに泥炭質低湿地の海岸低地の形成によって特色づけられる。

本島部は、天塩山地が北上して丘陵化した宗谷丘陵を脊梁とし、南北方向に宗谷岬まで達する分水界を境にして日本海・オホーツク海両傾斜面から構成されている。地形面はその分布において、一般に地質構造を反映して南北の方向性がみられる。東側のオホーツク海側斜面は、北海道の中央凹地帯を境に、北半部では宗谷丘陵に続く大規模な海岸段丘と、主として沼沢地と砂堤列よりなる海岸低地という東西方向での階段状配列であり、また、南半部（地域の南東部）は開析の進んだ北見山地の北端部をなす従順形の500～1,000mの山地（一部火山地を含む）と、オホーツク海岸の地形を代表する海成段丘群の発達とによって特色づけられよう。一方、西方の日本海側斜面では、とくに地質構造の強い影響をうけた南北方向の丘陵地群と、台地および河谷低地とがモザイク状に分布し、同時に海へ流入する河川の下流部には、北サロベツ原野で代表されるような海岸砂丘列を伴う泥炭質低湿地が広く発達する。島嶼の場合、礼文島は全体として北部の丘陵地・中南部の丘陵性山地形を呈しているのに対して、利尻島は島全体が円錐形火山で占められ、中央の利尻山（1,718m）は管内の最高峰をなす。

主として日高層群や安山岩で構成された南東部の山地地域は北部北見山地の延長部分で、その北端の斜内付近でオホーツク海に臨む。北見山地はその中部地域より北へ漸次高度を減じ、ここでは大起伏山地を欠き、最高峰のシアッシリム（903m）や、ポロヌプリ山（838m）一帯などの中起伏山地が若干みられる以外は、大部分が海拔600m以下の小起伏山地である。山地地域は一般に岩質的な影響のほか、周氷河作用によって丸味を帯び、いわゆる順従山形をなしている。山地周縁には周氷河性の山麓緩斜面が普遍的に発達する。火山地は、一部がこの山地地域に接し、庁界付近には洪積世の安山岩質熔岩からなる函岳（1,129m）を中心とした中起伏火山地、および同熔岩の加須美岳（915m）などの小起伏火山地を形成し、他方、利尻山が安山岩質の大起伏火山地および数箇の寄生火山の小起伏火山地をなしている。火山麓は利尻山でとくに顕著な発達を示し、玄武岩および安山岩からなる熔岩地や、火山性扇状地がみられる。

丘陵地は一部安山岩および白亜系の砂岩などのほか、大部分が新第三系の礫岩・砂岩・泥岩・頁岩などからなり、これに下部洪積統が加わる。上述したように、主要な地形の構成要素であり、褶曲などの地質構造や岩質の差を反映して、大起伏丘陵地および小起伏丘陵地が南北方向にほぼ平行して管内各地に分布する。大起伏丘陵地は脊梁をなす宗谷丘陵の分水界付近や南東部の山地周辺などに広く発達し、西部にはノシップ半島などに若干みられる。一方、小起伏丘陵地は、とくに南北性の強い稚内から豊富にかけての西部地域、およびオホーツク海側斜面の頓別川以北の台地地帯に隣接する地域にかなり広大な分布を示す。小起伏丘陵地の中にはかつて高位～中位台地面であったものが、その後著しく開析されて丘陵化した場合も含めてある。丘陵地の各密度は山地や台地のそれよりも著しく

高く、とくに小起伏丘陵地のが各種地形面のうちで最大値を示している。(オーバーレイの1方眼当たりの平均的な谷密度は、山地10~20、大起伏丘陵15~25、小起伏丘陵20~35、上位台地15~20、中位台地7~15、下位台地5~10、低地0~10、三角州性低地0~5などとなる。)一般に、丘頂面は激しい周水河作用によってスムーズな丸味を有し、周水河性皿状地や浅い盆谷状の周水河谷などが多数形成されている。

台地および段丘は、とくにオホーツク海沿岸沿岸や内陸の各河川沿いなどに数段発達し、砂礫・ローム・岩石の各種台地(段丘)からなり変化に富むと同時に、地域的にも特色ある分布を示している。オホーツク海沿岸では、日本海沿岸よりも海岸段丘の発達が顕著であり、殊に徳志別川以南の乙忠部付近では上・中・下各砂礫段丘面が標式的にみられる。また、頓別平熱周辺の中・下位砂礫段丘群は開析谷により断続的であるが、とくに下位面の場合、10~30mの高度を示し、きわめて平坦性に富んでいる。宗谷岬やノシップ半島にも数段の海蝕段丘が分布するが、堆積物は一般に薄く、礼文島沿岸の場合も同様な傾向にある。他方、内陸部には頓別・幌別川・徳志別川・幕別直・サロベツ川など多くの河川沿いの台地および段丘面が分布する。最も規模の大きいのは沼川周辺の下部洪積統からなる中位台地である。北サロベツ原野周縁部の台地や段丘面には、利尻火山起源の火山灰層や軽石層が厚く載っている。段丘面は高位のものほど開析されているが、とくに氷期の寒冷期における周水河作用のために、2次的に変形して波状形を呈し、段丘崖も緩斜面化して旧汀線の位置が不明瞭となる。段丘堆積層には、このような周水河作用の影響で化石構造土などが形成されていることが多く、場所によっては現在もおソリフラクションや周水河現象が生起している。なお、同時期に形成された段丘面であっても、地盤運動量によってその面(旧汀線)の高度に地域差が生じており、分類基準からは同一段丘群に分類されない場合もある。管内では総じて地盤隆起量は北に小さく、南に大きい。

低地は広義の海岸平野の主体をなす三角州性低地および砂州、砂丘と、山地や丘陵地帯を開析する各主要河川の谷底平野の扇状地性低地とから構成される。最も重要なのは三角州低地で、オホーツク海側ではクッチャロ湖などの多くの海跡湖沼を伴い内陸深く入り込んだ頓別平野、日本海側では宗谷湾に面した幕別平野、および天塩平野の北半部を占める大湿原地の北サロベツ原野が代表的である。そのほか2・3の海岸低地がみられるが、これらの生成が海面変化の中でおこなわれ、いずれもかつての浅海性内湾から砂州・砂堤の発達によるラグーンの形成を経て、土砂の埋積や泥炭地および砂丘の形成という一連の過程をとってきた点は共通している。

1-1-2 地形区(宗谷支庁)

A 山地・火山地

- I ポロヌプリ山地
- II 敏音知山地
- III ベンケ山地
- IV 北部北見山地
- V 礼文山地
- VI 利尻火山地

B 丘陵地

- I 枝幸丘陵
- II 歌登丘陵
- III 頓別丘陵
- IV 宗谷丘陵

V 西部丘陵群

1. タツナラシ丘陵、
2. 更喜苫内丘陵、
3. 稚内丘陵、
4. 抜海丘陵、
5. 瑞穂丘陵、
6. 徳満丘陵、
7. 豊富丘陵

VI 礼文丘陵

C 台地・段丘

I 宗谷岬台地・段丘

II 北オホーツク台地・段丘群

1. 猿払台地・段丘、
2. 浜頓別台地・段丘、
3. 豊寒別台地・段丘

III 枝幸台地・段丘

IV 乙忠部台地・段丘

V 東南部内陸台地・段丘群

1. 中頓別台地・段丘、
2. 歌登台地・段丘、
3. 志美宇丹台地・段丘

VI 西部台地・段丘群

1. 増幌台地・段丘、
2. 沼川台地・段丘、
3. ウエンナイ台地・段丘、
4. 兜沼台地・段丘、
5. 豊徳台地・段丘

VII 礼文北部台地・段丘

D 低地

I 頓別低地

II 下幌別低地

III 幕別低地

IV 稚内低地

V 抜海低地

VI 北部サロベツ低地

1-1-3 地区別の地形区概要

A 山地・火山地

A I ポロヌプリ山地

北見山地最北の開析山地で、最高峰のポロヌプリ山(838m)や珠文岳(761m)など、高度600~800mの中起伏山地と、これを取り巻く高度400~500mの小起伏山地とからなる。山地を構成する地質はほとんどが日高層群で、南部の小起伏山地の一部には谷密度が比較的高い新第三系がみられる。

A II 敏音知山地

この地区形は小範囲であるが、敏音知岳(704m)・松音知岳(522m)の円錐形の古い両火山体からなり、北海道の中央凹地帯上に噴出したものである。山体は鮮新世~洪積世初期の石英安山岩および輝石安山岩からできているが、この周囲には厚く崖錐堆積物が覆って山麓斜面を形成する。

A III ベンケ山地

上川・留萌両支庁との境界付近にあって、南北方向に細長く分布し、ベンケ山(716m)およびベンケ山(632m)のほかは海拔高度400~500mの小起伏山地であり、その大部分が蛇紋岩で構成されている。

A IV 北部北見山地

上記のポロヌプリ山地の南に位置し、志美宇丹盆地を取り囲む高度400~650mの小起伏山地

で、一部に小起伏火山の独立峰を数箇含む。山地内には幅狭い河谷低地が発達していることから、この地形区は数箇のブロックに細分できる。すなわち、盆地北側の高度450m前後の山地は歌登山(573m)を最高峰とし、主に鮮新世の安山岩(歌登熔岩^m・辺毛熔岩)がらなる丸味を帯びた山地である。また、西～南部には安山岩質の歌登・音威富士両熔岩からなる500～650mの山地があって、いずれも中～鮮新統(堆積岩)の上に噴出した古い火山体である。上川支庁との庁界付近には、一部に日高層群を含む、安山岩質の音威富士熔岩で構成された300～490mの小起伏山地が分布する。一方、盆地南東後の徳志別川以東の山地は日高層群の粘板岩・頁岩および変成岩のホルンフェルスを中心とした高度300～500mのやや急峻な山地である。山麓には岩屑からなる緩斜面が発達する。

南西部には右期安山岩質の函岳熔岩で構成された函岳(1129m)・熊野岳(954m)などの中起伏火山地、および加須美岳(915m)・黒岩山(798m)などの小起伏火山地がある。これらの火山体は下方より侵蝕されてきているが、谷密度は一般に小さく、山頂から山腹にかけては今なお火山形を呈している。なお、同熔岩からなるシアッシリ山(902m)はかなり周辺より侵蝕されて現在では火山形を留めていない。

A V 礼文山地

礼文島の礼文岳(490m)を最高峰とした高度200～400mの丘陵性の小起伏山地で、その北半部は下部白垂系の礼文層群・南半部は一部礼文層群のほか新第三系でそれぞれ構成されている。山地を開析する河谷は深くV字状であるが、山稜や山腹はソリフラクションによって丸味を帯びている。場所によっては海拔250m地点からハイマツ帯となり、裸地の部分では凍結破碎による岩屑が分布する。山地縁辺の各所に小規模な段丘面が付着している。

A VI 利尻火山地

利尻島は安山岩で構成された円錐形の利尻山(1719m)そのものからなる島嶼であるが、地形的にはほぼ400m以上の急峻な大起伏火山地と、それ以下の緩斜面をなす火山麓および山体の南北両側に噴出した寄生火山の小起伏火山地とに大きく分けられる。また、火山麓はその構成物によって熔岩地と火山性扇状地(山麓堆積面)とに区分できる。山体の海拔高度350～400m付近に森林限界があり、それ以上の灌木や高山植物帯にはやや緩やかな山腹の部分があって、雪窪などの周氷河地形が観察されたが、高度700m以上になるとかなり急峻で絶壁をなす部分があり、かつて利尻山が氷蝕作用をうけたという説もある。火山麓のうち、玄武岩からなる熔岩地は山頂より南東および西側に広く分布し、南東部の山腹にはアララギ山仙法志ボン山などの寄生火山が形成されている。火山性扇状地は平均傾斜約5～6°で礫砂・粘土などの未凝固の碎屑物からできている。

B 丘陵地

B I 枝幸丘陵

枝幸町市街の西方に位置し、一部に小起伏山地を含む大起伏丘陵で200～300mの高度を示す。これは古い火山体の丘陵化したもので、中新統の枝幸層を基盤にした中新世～鮮新世噴出の安山岩質熔岩で構成されている。丘頂面はいずれもきわめて丸味を呈している。

B II 歌登丘陵

歌登盆地に接してポロヌプリ山地と北部北見山地との間に発達した新第三系の丘陵地で、その大部分が150～250m高度の大起伏丘陵であるが、谷底平野に臨む末端部では開析の著しい高位台地を含む起伏量100m以下の小起伏丘陵となる。また、丘陵地内の谷密度は、隣接する北部北見山地(オーバレイによる1方眼当たり10～15;以下本文では同様の面積単位内の数値で示す)と、

ポロムブリ山地南部および頓別丘陵(20~30)との中間的な値(15~20)をとる。

B III 頓別丘陵

猿払川上流域から頓別川中・上流域一帯にかけて分布し、高度160~300mのほとんど白亜系からなる大起伏丘陵地帯であるが、浜頓別台地に接する部分や猿払川上流域には海拔100m前後の古い高位台地面が発達し、新第三系ないし下部洪積統で構成される場合が多く、一般にかなり開析されているので小起伏丘陵地として分類した。大起伏丘陵地は北半部のモウツナイ川以北で南北方向の地質構造にほぼ一致して山脈状に副分水嶺を形成し、南半部では主分水嶺をなすパンケ山地の東方へ延びた副分水嶺を形成するが、両者の接点部分にこの丘陵地の最高地点(356m)がある。

B IV 宗谷丘陵

管内最大規模の地形区であり、最も代表的な丘陵地形である。この丘陵地は前述のように天塩山地が北上したその延長部にてあり、ほぼ南北方向で宗谷岬に達して日本海・オホーツク海両斜面の分水嶺を形成する。丘陵地の南北の方向性は地質の分布や褶曲軸などの地質構造と一致する。分水界付近は主として砂岩(白亜系)からなり、大起伏丘陵を形成している。この大起伏丘陵は局部的には最高地点の幌尻山(426m)の小起伏山地を含むが、エタンバック山(313m)を最高に北上するほど漸次高度を減じ、北端で約130mになるが、その中であってモイマ山(232m)や丸山(168m)などの残丘状の孤立丘もみられる。オホーツク海側の猿払川上流以北には、高位段丘群の丘陵化したものを含み、高度60~140m・谷密度20~35の白亜系(尾蘭内層)や中新統(増幌層)などで構成された小起伏丘陵が発達している。また、分水界以西のシルト岩石質の尾蘭層やメナシベツ層の分布する地域には高度120~160mの小起伏丘陵、礫岩・砂岩を主とした増幌層の部分には140~230mの大起伏丘陵がそれぞれ発達する。これら各地域の丘陵地はとくに最終氷期の寒冷期に激しい周氷河作用をうけ、典型的な周氷河性皿状地・岩塊流・周氷河谷などの特色ある寒冷地形が形成されており、同時に森林を欠く部分では現在もなお周氷河作用が生起している。

B V 西部丘陵群

背梁をなす上記宗谷丘陵の以西には、地質構造に大きく支配されてブロック状に大・小起伏丘陵地が分布している。区分上、これをまとめて西部丘陵群とした。

B V-1 タツナラシ丘陵

増幌川と幕別川との間にほぼ南北にわたって位置し、タツナラシ山(223m)を最高に背斜構造を伴った150~220m高度の増幌層からなる大起伏丘陵と、60~140mの稚内層(一部に下部洪積統)の小起伏丘陵とに分けられ、前者は山脈状であり、後者は孤立丘が連なった形態を示す。

B V-2 更喜苔内丘陵

幕別低地の幕別川とサラキトマナイ川とにはさまれた南北方向の丘陵で、中央部の140~160m高度の大起伏丘陵(最高点175m)と、その周囲にある50~70mの一段低い小起伏丘陵(かつての洪積台地が丘陵化したもの)とからなる。前者は硬質泥岩などの稚内層(中新統)で構成され稜線に沿って背斜軸が延びている。一方、後者は軟質頁岩・泥岩の声問層(中新統)を基盤に恵北層(下部洪積統)で構成され、とくに谷密度が20~30で前者より高い。

B V-3 稚内丘陵

大沼に流入するサラキトマナイ川以西の南北に連なる丘陵地で、ノシヨップ半島の稚内層からなる海拔130~200mの非常に丸味を帯びた大起伏丘陵と、この南に続く声問層などの60~90mの小起伏丘陵とに分けられる。丘陵地内の河谷をみると、前者では谷が深く、しかも20以下の谷密度であるのに対して、後者のは浅く細かい多数の河谷が発達(谷密度30以上)しており、きわめて

対照的である。丘陵地の縁辺部に薄く段丘堆積物をのせているが、平坦面の保存の状態から一部の段丘面を图示した。

B V-4 抜海丘陵

稚内丘陵南部の西側に小範囲で分布し、主として礫岩・砂岩の更別層（鮮新統）で構成された60～120m高度の小起伏丘陵である。管内の丘陵地でも谷密度の最も高い地域で35前後の値を示す。縁辺部には部分的に中・下位段丘面が付着する。

B V-5 瑞穂丘陵

勇知川河谷低地をはさんで、上記抜海丘陵の南方に位置する。丘頂面の最高部は中央付近の105mで、稜線は70～90mの高度にある。地質では下部に鮮新世の勇知層・更別層があり、その上に下部洪積統の兜沼層が載る。

B V-6 徳満丘陵

南北方向に紡錘形をした高度100～130mの小起伏丘陵である。地質構造の走向と一致して東側に細長く泥岩からなる勇知・声間両層、中央から西部部に更別層がそれぞれ分布する。西縁のサロベツ低地沿いにローム層に覆われた中位段丘面が幅狭く発達している。

B V-7 豊富丘陵

宗谷丘陵と徳満丘陵との間から南へ延び支庁界に達する丘陵地であるが、河川によって数箇のブロックに分かれる。サロベツ川を境に、以北の140～190m高度の2つのブロックは大起伏丘陵に相当し、それ以南では声間層と稚内層からなる下エベコロベツ川以北の140～170m丘陵地、更別層からなる庁界付近の100～120mの丘陵地の2つのブロックは小起伏丘陵にそれぞれ分類される。つまり、南ほどその高度が低下しているが、逆に谷密度は大きくなる傾向がある。

B M 礼文丘陵

礼文島の北部には周水河作用の影響を強くうけた丘陵状の地形が多く発達する。とくに、小起伏丘陵からなる中央部分および大起伏丘陵からなる北東部の高山（167m）付近で顕著であり、下部白亜系の内路層や新第三系のメシクニ層・浜中層などで構成されている。

C 台地・段丘

C I 宗谷岬台地

宗谷丘陵の周囲には数段の段丘面が発達しているが、その先端の岬周辺にも分類基準による中・下位両段丘面が分布する。中位面は高度40～70mでやや波状形を呈し、段丘崖も緩傾斜して不明瞭な形態をとる場合が多い。この表面には粘土質成分に富む堆積物が厚さ1m前後でみられるが、概して薄い。旧汀線が海拔35mの下位段丘面は厚さ1～2.5mの段丘堆積物に覆われ、きわめて平坦性に富み段丘崖も明瞭である。

C II 北オホーツク台地群

宗谷丘陵以東のオホーツク海沿岸（東浦～斜内）の台地・段丘群を北オホーツク台地群とし、便宜的に猿払川・頓別川の両河川を境に3地区に細分した。各地区とも分類基準による中・下位両砂礫段丘群が標的に発達する。なお、上位面に相当する地形面は、上述したように、開析が著しく平坦面を失っていることから丘陵地の一部に加えられてある。

C II-1 猿払台地

北オホーツク台地の北半部を占め、北へ行くほど段丘面の幅員が減少し、とくに知来別以北で下位面は消失する。猿払川中流域一帯はかつて内湾であったと思われ、内陸深く粘土・シルト成分に富む堆積物に覆われている。猿払・芦野付近は段丘面の最も大規模な発達を示し、中・下位両面の幅員合

わけて10Kmに近い。全体として、中位面は谷密度が相対的に高く(10~25)、開析作用が若干進行していることから波状形を帯び、堆積物は円礫を含む細粒成分を主とし、その層厚は2mほどで概して薄い。下位面は比較的谷密度が小さく(5~10)、表面は平坦性を保っていわゆる単成的段丘の性質を示し、一般に円礫層を下部にして砂質成分を厚く載せており、さらにその上を薄いローム層が被覆する。

C II-2 浜頓別台地

クッチャロ湖周辺地域に発達した段丘群で、上記猿払台地の南への連続であるが、分類基準によって80m面・60m面・40m面の3段丘を中位面に、15~30m面を下位面にそれぞれ分類した。中位段丘群のうちの40m面は下位段丘面同様に平坦面の保存が良好であるが、他の両面はかなり開析されて波状形を帯びる。堆積物の状況は猿払台地区の場合と同様である。

C II-3 豊富別台地

旧汀線15~20mの下位面と、30~60mの中位面との兩段丘面がみられ、前者は海岸に沿って斜内まで連続的に幅狭く分布し、後者は頓別川に平行して発達するが、両者とも背後の山麓緩斜面との境がきわめて不明瞭である。この山麓緩斜面は厚い岩屑から形成されている。

C III 枝幸台地

枝幸町市街地を載せた高さ5~20mの下位段丘面・20~40mおよび50~70m両面の中位段丘面・旧汀線90~100mの上位段丘面の3つにそれぞれ分類した。下位面は海岸に平行して、ほぼ連続的に発達し、中位面は背後の緩斜面に漸移する場合もあるがウェンナイ川下流一帯に分布している。中位段丘の場合、20~40m面には明瞭な段丘堆積層(厚さ3m前後)に覆われているが、50~70m面は、上位面と同じようにそれぞれをほとんど欠くことが多い。

C IV 乙忠部台地

網走支庁雄武台地(網走支庁地形分類のC I-1)からの連続であり、上・中・下3段丘の海岸段丘に分類した。下位面(旧汀線10m・20m両面)および中位面(同40m・80m両面)とも海岸線に平行して連続的に発達し、段丘面の示す旧汀線はほとんど変位していない。一方、上位面は北へはペラウシナイ川上流まで分布し、旧汀線はおよそ180mである。全体として高位の段丘面ほど二次的に波状化し、段丘崖も緩傾斜化して、氷期の寒冷期における周氷河作用の影響を物語っている。段丘堆積物は砂礫層のほか、上部に厚い粘土層が載っており、露頭ではインボリューションなどの化石構造土が発見される。

C V 東南部内陸台地群

上記のように、オホーツク海沿岸には標式的な海岸段丘が発達しているが、その内陸においても小盆地内の河川流域に小規模ながら河岸段丘群が分布する。中・上位両面のなかには、いわゆる周氷河性緩斜面の性質を帯びたものが認められるが、分類上これを台地に含めた場合もある。

C V-1 中頓別台地

中頓別を中心とした頓別川中流域および兵知安川流域の段丘群で、上・中・下位各面に分類できる。上位の100~150m面は町界に当たる地域の岩石段丘と、中頓別旭台の砂礫段丘面とがある。中位面は平均して30~80mの高度にあり、中頓別付近が最も規模が大きく、上流部では断片的に堆積物も薄くなる。また、下位面は河床より7~15mにあって河川沿いに断続的に発達する。

C V-2 歌登台地

歌登盆地は幌別川の中流域に形成された盆地で、その縁辺には小規模な台地および段丘群が分布しているので沖積低地を含めて1地形区とした。最も明瞭な段丘は下位面で河床からの比高10~20

mにあり、全て粘土および砂礫堆積物を伴っている。中位面や上位面は断片的で、この中にはいわゆる周水河起源の緩斜面が含まれる。他方、かつての高位の台地が丘陵化した地形を観察できる。

C V-3 志美宇円台地

志美宇円市街を中心に、徳志別川およびオフタルマナイ川の各中流域に発達した段丘群で、河床からの比高差に従い上・中・下位の各方面に分類される。上位面は海拔150~200mの高さにあって、新第三系を基盤に堆積物が薄く載っているが、開析作用を著しくうけており、一部丘陵化したものがある。中位面は緩く傾斜し、背後の平滑斜面上に漸移するが、河床より20m~25mの比高をもつ。下位面は上徳志別やオフタルマナイ付近でかなり広く発達し、河床より10~15mの高さにあって、中位面同様に層厚数mの堆積物に覆われている。

C VI 西部台地群

先述の丘陵地と同様、管内の西部地域では各河川に沿って断続的に台地ないし段丘面が分布しているが、ここでは5地区に細分した。

C VI-1 増幌台地

増幌川の河谷平野に沿って発達した台地ないし段丘群で、高度30~60m(旧汀線60m)の中位面、およびこの面を切って形成された下位の河成段丘面とからなる。いずれも1.5~5m以上の厚さの粘土・シルト・砂礫などの堆積層に覆われ、一部に泥炭層をはさむ。

C VI-2 沼川台地

幕別川・サロベツ川・下エベコロベツ川支流の各中・上流域に発達した台地および段丘群で、新第三系の声問層の分布する上流域にあっては堆積物を欠くか、あってもきわめて薄く岩石台地を形成する。福水川流域のローム質台地は1~2m厚さの浮石層を伴い、20~30mの下位面と40~60mの中位面とに分けられる。砂礫台地は下部洪積統の分布地域とほぼ一致し、高度40~80mの洪積台地(中位面)と10~20mの河成段丘面(下位面)とがかなり広く発達している。

C VI-3 ウェンナイ台地

稚内市街南東のウェンナイ川流域から声問川に至る中・下位両台地および段丘群である。東側の中位面は60m前後の旧汀線を示し、かなり周囲から開析をうけているが、面自体は幾分平坦性を保つ。また、旧汀線10~30mの下位段丘群はウェンナイ川流域に分布し、場所によっては堆積物を欠いている。

C VI-4 兜沼台地

瑞穂丘陵地の東側縁辺部のサロベツ原野に臨む中・下位段丘群で、一部に火山灰質風化物や浮石層を載せている。中位面の旧汀線は約50m・下位面のは20m前後をそれぞれ示す。

C VI-5 豊徳台地

上サロベツ原野と海岸砂丘帯との間に細長く発達した中・下位両段丘面で、いずれも利尻山由来の火山灰層(これは豊徳火山灰層と呼ばれ3570±1200年BPとされている)、および軽石層(同様にワンコの沢軽石層5240±1000年)に被覆される。中位面は40~55m・下位面は10~20mの高度を示す。

C VII 礼文北部台地

礼文島は地形的にみると、高度約200m以上の山岳地域とそれ以下の隆起海蝕台地とに二分できるが、後者はさらに数段に細分されよう。しかし、高位の面はすでに丘陵化しており、現在平坦面を保って台地あるいは段丘地形として発達しているのはごく限られた地域であり、しかも断片的である。ここではとくに集団的にみられる北部を地形区分の対象としたが、島嶼全体としては上・中・下位の

各段丘面が存在する。旧汀線20m以下の下位面、およびオソナイ川流域の中位面のほかは、ほとんどの中位面(旧汀線60~80m)では段丘堆積物が薄い。約100mの高度に旧汀線を示す上位面では段丘礫層を欠き、風化した岩屑を厚く載せている。

D 低地

D I 頓別低地

北オホーツク台地群を開析し、オホーツク海へ流入する鬼志別川・猿骨川・狩別川・猿払川・クッチャロ川・頓別川の各河川下流部低地である。一部の扇状地性低地を含む海拔10m以下の泥炭質湿地を主とする海岸低地で、この中にはクッチャロ湖をはじめ、ポロ沼・モクウニ沼・キモマ沼・猿骨沼・ボン沼などの海跡湖沼群が散在する。また汀線との間には砂州が成長して幅1~2Km・高度6~8mの砂堤が連続的に発達しており、この上に小規模な砂丘が形成されている。前面の海浜地帯は幅員20~80mあって、そこでは2~3段のバームが発達している。内側の三角州性低地では層厚1~3mの泥炭層が形成され、高位泥炭は頓別川下流および猿払川上流部に限られているが、湖沼周辺には低位泥炭地が広がり、同時にアカエゾマツの混入するワタスゲ・ヌマガヤ・ヨシなどの中間泥炭地も広く分布する。平野面を流れる各河川は著しく蛇行している。

D II 下幌別低地

枝幸町市街南方の海拔10m以下の幌別川下流域である。湾口砂州の発達により、その内側に泥炭湿地が形成され、その中を幌別川が大きく曲流する。泥炭はヨシを主とした低位泥炭地が広く、ヤチハノキヤヤナギなどの中間泥炭地が散在するほか、一部に高位泥炭地がみられる。

D III 幕別低地

幕別川・増幌川両河川の流域低地、および宗谷湾央の砂質低地からなり、幕別平野の沖積面に相当する。大沼ヤメグマ沼などの海跡湖沼を含む海拔5~10m以下の三角州性低地の大部分がヨシを主体とした低位泥炭地で、幕別川流域の一部に中間・高位泥炭がみられる。孤状の砂浜海岸に沿って幅0.5Km前後の砂堤があり、この上部に大小5列の小形砂丘が発達していたが、海寄りの新期砂丘群は道路建設など人工的に破壊されている。内陸側の砂丘は5~8mの高度を示す。

D IV 稚内低地

ノショップ半島縁辺の幅員200~600m、海拔5m以下の砂質低地であり、一部に市街地造成の海岸埋立地を含む。半島の東側には稚内市街・西側には漁村集落が立地する。段丘および丘陵の崖下には崖錐や小扇状地が形成されている。また、現汀線より海面下2~3mまで幅300~500mの稚内層からなる海蝕棚が発達する。

D V 抜海低地

上記稚内低地の西側海岸の延長部分、およびクトネベツ川・勇知川両河川沿いの低地を含む。海岸低地には明瞭な2列の横列砂丘と沼沢地とがみられるが、この砂丘帯は幅を拡げさらに南へ連続して天塩川河口にまで至り、当地形区はその北端部に当たっている。内陸側のクトネベツの低地帯には、海拔5~10mの低位泥炭を主とした泥炭質湿地、および10~20mの扇状地性平野が発達している。

D VI 北部サロベツ低地

この地形区は上サロベツ原野、ならびに日本海岸に沿って大規模に発達するサロベツ砂丘群からなっている。前者は大部分が海拔5~10mの泥炭湿地であり、河川に沿って氾濫原堆積物が分布する。原野の中央部には丸山と呼ばれる小島のような低位台地が位置しているが、この周辺一帯は中間~高位泥炭が広く発達する。泥炭の厚さは5m前後で、高位泥炭ではミズゴケ・ホロムイスゲ・ヌマガヤ

を主とし、中間泥炭はワタスゲ・ヌマガヤ・ハンノキなどが基本となる。兜沼や瑞穂丘陵の周辺には中間～高位泥炭は十分発達していないが、ハンノキ・ヨシ泥炭からなる低位泥炭地が広く分布する。北北西—南南東の方向に延びた道内有数の砂丘帯は最大10列ほど算えるが、表形・植生的には3～4群に大別できよう。一般に内陸の砂丘ほど高度を増し、汀線付近の新砂丘7～8mから最内の15～20mの高さとなる。同様に、砂丘を被覆している植生も草木類からカシワ林・トドマツ林へと変化する。各砂丘列の間の凹地帯は排水が不良となり、沼沢地が多数形成されている。また、海浜地帯は幅員5～15mできわめて貧弱である。

(北海道教育大学旭川分校 小杉健三)

1-2 留萌地域

1-2-1 総説

留萌地域は北海道の北西部を占め、東には天塩山地、南には増毛山地があり、前者にはピッシリ山(1,032m)があり、後者には暑寒別岳(1,491m)、群別岳(1,776m)、浜益岳(1,258m)、雄冬山(1,198m)等の山地がある。留萌地域の大部分は、これら山地の大起伏山地、中起伏山地、小起伏山地と山麓地よりなり立っている。

留萌地域の丘陵地には、支庁の北部に、天塩川の北に大起伏丘陵地の幌延丘陵があり、南に小起伏丘陵地の天塩丘陵がある。

台地・段丘としては、海岸線に平行して砂礫台地である海岸段丘が分布し、増毛町より天塩川下流は近まで分布する。特に苫前町、羽幌町付近にはよく発達している。何れも砂礫段丘である。

留萌地域は大部分が山勝ちであり、平地は少なく、扇状地性低地は信砂川、留萌川、築別川、茂築別川、初山別川、遠別川、天塩川の河川沿いに小規模に分布するにすぎない。

三角州性低地はこれら河川の河口に小規模に分布するものと、天塩川下流に例外的に広く分布するものがある。後者においては砂丘も見出される。

1-2-2 地形区分

留萌地域の地形を、地形のまとまりの上からつぎのように分類した。分類する場合には大きなまとまりを重視し、細かい地形はある程度省略した。

- 大分類 A V 留萌南部山地
A VI 留萌北部山地
B V 西部丘陵群
B VII 天塩丘陵地
C VII 留萌南部台地
C VIII 留萌北部台地
C X 天壳・焼尻台地
D VII 南部サロベツ低地
D VIII 留萌中央低地
D IX 留萌北部低地

1-2-3 地域別の地形区概要

山地は古丹別川を境界として南部山地と北部山地に分類した。

- A V 留萌南部山地

留萌南部山地は留萌川、小平薬川、古丹別川により、つぎのようにA V-1からA V-3まで分類した。

A V-1 増毛山地

A V-2 ボロシリ山地

A V-3 大天狗山地

増毛山地は暑寒別岳、雄冬山の起伏山地、その周辺の中起伏山地、小起伏山地、山麓地よりなり、留萌地域ではもっともけわしい山地をなし侵蝕もすすんでいる。一部には河岸段丘よりなる砂礫台地、丘陵地、低地も包含されている。

ボロシリ山地は一部に中起伏山地もあるが、大部分は小起伏山地と大起伏丘陵よりなる。

大天狗山地は大天狗山567m最高地とする小起伏山地が大部分を占め、これに丘陵地が付随する。

A VI 留萌北部山地

留萌北部山地をつぎのように三分類した。

A VI-1 ピツシリ山地

A VI-2 雄信内山地

ピツシリ山地はピツシリ山1,032mを中心とする山地で、この付近では中起伏山地が小面積分布する。しかし、この山地の殆んどは小起伏山地で、これに丘陵地が付随するが、古丹別川から天塩川に至る広い面積を占める。この間にあって羽幌川、築別川、猿別川等の谷が単調さを破っている。

雄信内山地は天塩川北方にある小面積の山地で、低山性の山地と丘陵地よりなる。

B VII 天塩丘陵地

留萌地域北部にある丘陵地を一括してこのように分類した。さらにこれをつぎのように細分した。

B VII 天塩丘陵

B IV 宗谷丘陵

B V-7 豊富丘陵

天塩丘陵は天塩町の東方にあり、天塩川、天塩平野に囲まれた小起伏丘陵である。一部に台地や低地を包含する。

宗谷・豊富両丘陵はその南端部が幌延町北部にある丘陵地であり、天塩川北方に分布する。

C VII 留萌南部台地

留萌海岸地方の台地を古丹別川以北の比較的発達のない北部と、比較的面積のせまい南部とに二分し、さらに天売・焼尻島の台地を一括し、あわせて三分類した。

留萌南部台地は北部に比べて面積がせまく殆んど上・中の砂礫台地より成り立って居り、一部に低位砂礫台地もある。これらの台地を信砂川、留萌川、小平薬川によって次のように四分した。

C VII-1 増毛台地

C VII-2 阿分台地

C VII-3 三泊台地

C VII-4 港町台地

C VIII 留萌北部台地

上・中・下位の砂礫台地が広く発達するが、特に上・中位の台地（海岸段丘）が発達する。これらの台地を羽幌川、築別川、茂築別川、初山別川、風蓮別川、オタマベツ川によりつぎのように分類した。

C VIII-1 苫前台地

- C VIII-2 羽幌台地
- C VIII-3 築別台地
- C VIII-4 天塩栄台地
- C VIII-5 初山別台地
- C VIII-6 天塩大沢台地
- C VIII-7 金浦台地

C X 天売・焼尻台地

天売島と焼尻島の海岸段丘を大別して、上・中・下位の三砂礫台地に分け、また、島ごとに二細分した。

C X-1 天売台地

C X-2 焼尻台地

D VIII 留萌中央低地

留萌地域の低地を海岸の中央部に存在するものを一括して中央低地とし、北部の低地を一括して北部低地とした。

留萌中央低地は河川毎につきのように分類した。

D VIII-1 古丹別川低地

D VIII-2 羽幌川低地

D VIII-3 築別川低地

D K 留萌北部低地

天塩川中流部の扇状地性低地と下流河口部の三角州性低地に二分した。

D K-1 天塩川低地

D K-2 天塩平野

D VI 南部サロベツ低地

サロベツ低地の南半部とする。

(北海道教育大学函館分校 瀬川 秀良)

2. 表層地質の分布とその性状等の概要

2-1 宗谷地域

この地域は利尻、礼文島と本道部がある。利尻島は火山で火山性岩石と礫屑物で構成されている。火山性岩石には安山岩質岩と玄武岩質岩が発達している。山麓部は背後から供給された火山砕屑物が発達している。

礼文島は火山角礫岩、泥岩、砂岩・泥岩互層、砂岩で構成され、わずかに礼文島北部の海岸に玄武岩質岩石、南部に安山岩質岩石が分布している。また島を横断する断層があり、複雑な地質構造を示している。

本道のこの地域は南北性の断層これを切る東西性の断層さらに向斜、背斜が顕著で非常に複雑な構造となっている。サロベツ原野には泥炭が広く形成され浅茅野地域の低地部にも泥炭が形成されている。

地域の西部は主に第三紀の泥岩、砂岩、第四紀の砂・礫を主体とした未固結堆積物が分布している。東部から北部にかけては神居古潭帯の延長にあたる蛇紋岩体が発達している。白亜紀へ第三紀に属す、泥岩、砂岩・泥岩互層、粘板岩などが分布している。北部では、輝緑岩質岩石、花こう岩体、はんれい岩体、ホルンフェルス、安山岩質岩石、火山角礫岩などが分布して来る。各河川流域には段丘堆積物が形成されている。

2-2 留萌地域

この地域は南北に長い管内で、南には暑寒別の火山性岩石類が分布し、そのほかは白亜紀～第四紀の未固結～固結堆積物が分布している。管内の中央地域は砂岩、泥岩互層が卓越して南北方向に広く発達している。この地層の分布するところで、留萌、小平、苫前地区には崩壊地、地すべりが存在している。とくに日本海岸沿いには崩壊地が各所におこっている。泥岩は苫前の海岸、支庁界に帯状に分布し、白亜紀～新第三紀のものがある。

砂岩も砂岩および砂岩、泥岩互層の周辺部に帯状に分布するが北部では分布が卓越している。さらに北部地域の低地帯では泥炭が発達している。また砂丘も天塩の海岸に点々と発達している。天売、焼尻島は火山性岩石と段丘堆積物で構成されている。

2-3 応用地質

有用資源としては遠別～天塩にかけて石油・天然ガスが賦存している。遠別町では天然ガスを利用し保養センターが建てられている。

このほか海岸では砂をはじめ第四紀の未固結堆積物の砂・礫、輝緑凝灰岩、利尻島の玄武岩などを骨材資源として活用している。

(北海道立地下資源調査所 松井公平)

3. 土壌の分布とその性状および生産力可能性等の概要

3-1 土壌の類分および作図の方法

本調査における土壌の類別は、表-1の土壌統群一覧表に示した基準にしたがって実施した。

図示単位は原則として土壌統群を使用した。山地、丘陵地地域の土壌のうち線状あるいは小斑状に細かく分布するために、本縮尺では図示困難ないくつかの土壌統群については、それらの混存相の規則性に基づいて、表-2に示すように12の土壌混在区を設け、それを作図単位とした。すなわち表-1において※のついた9の土壌統群は、それぞれ単独では図示単位として使用されておらず、他の土壌統群との組合せ(土壌混在区)で図示されている。なお、分級、面積計測など土壌図を使った一連の作業は、表-1の土壌統群(※印を除く)と表-2の土壌混在区について行なった。

本図幅における山地、丘陵地、台地、低地の土壌は土壌群11、土壌統群29、混在区6に分類される。各種土壌の分布および、地形、地質、生産力との関連をみるとつぎのとおりである。

3-2 山地および丘陵地の土壌

3-2-1 全域の概要

山地、丘陵地の基調となる褐色森林土(酸性)である。この褐色森林土は全般に埴質緻密で、堅果状構造が発達したものが多い。特に丘陵地の土壌はこの傾向が強く下層に柱状構造を伴うものも多く、表層に還元作用が認められるもの、表層の粘土が一部下層に移動したものが含まれる。北部では乾性褐色森林土の分布は稀である。生産力は他地域に比べ一般に低い。

本地域の北部は気候的土壌帯からはポドゾル性土壌地域に区分されているが、丘陵地、低山地ではポドゾル化土壌の分布は少ない。海拔高を増すと褐色森林土や暗色系褐色森林土とカタナを形成している。

3-2-2 宗谷地域

利尻島、礼文島は両島とも比較的低標高からポドゾル化土壌が分布する。西寄りの風が強い両島では、風が生産力の規制因子として強くはたらいっている。利尻島では、山頂から高山性岩屑土壌-岩石地、ポドゾル化土壌-高山性岩屑土壌、褐色森林土壌という垂直構成がみられ、東半分の低山には火山抛出物未熟土壌、くろぼく土壌等がみられる。

宗谷主部(稚内市、豊富町、猿払村、浜頓別町の一部、中頓別町の一部)は白亜紀層の丘陵地が多くを占める。丘陵地は段丘的地形を示すものも多く、一部は洪積母材をのせている。殆んど褐色森林土Ⅱ群域で、褐色森林土Ⅰ群域はみられない。丘陵地の土壌は埴質緻密で堅果状構造を伴うものも多く、構造深度の浅い土壌、表層が還元作用をうけた土壌が含まれる。一部に灰色台地土壌が分布する。稚内付近の原野にはローム質のくろぼく土壌が分布する。また知駒岳付近の蛇紋岩山地にはアカエゾマツを指標植物とするポドゾル性グライ土が分布し、ポドゾル化土壌Ⅱと表示した。一般に生産力は低い。

宗谷南東部(枝幸町、歌登町、中頓別町の一部、浜頓別町の一部)は先白亜紀層、新第三紀層、安山岩類、変成岩類等各種岩石からなる山地で、褐色森林土が広く分布する。大部分は褐色森林土Ⅱ群域であり、礫質の土壌が多い。生産力は宗谷、留萌地域中では大きい。高海拔地には褐色森林土-ポドゾル化土壌群域がみられ、安山岩山地の高海拔地には暗色系褐色森林土-ポドゾル化土壌群域があ

表 - 1 土壤統群一覧表

大分類 (土壤群)	中分類 (土壤亜群)	小分類 (土壤統群)
岩石地	岩石地	岩石地※
岩屑土	高山性岩屑土	高山性岩屑土※
	岩屑土	岩屑土※
未熟土	残積性未熟土	残積性未熟土
	砂丘未熟土	砂丘未熟土
		湿性砂丘未熟土
火山抛出物未熟土	火山抛出物未熟土 粗粒火山抛出物未熟土 湿性粗粒火山抛出物未熟土	
くろぼく土	累層くろぼく土	累層くろぼく土 湿性累層くろぼく土
	くろぼく土	くろぼく土 a (くろぼく土)
		くろぼく土 b (ローム質くろぼく土)
		湿性くろぼく土 a (くろぼく土)
未熟くろぼく土	未熟くろぼく土 湿性未熟くろぼく土	
淡色くろぼく土	淡色くろぼく土	淡色くろぼく土 a (くろぼく土)
		淡色くろぼく土 b (ローム質くろぼく土)
褐色森林土	褐色森林土	乾性褐色森林土※ 褐色森林土※ 湿性褐色森林土※ 褐色森林土Ⅳ
	暗色系褐色森林土	暗色系褐色森林土※
ポドゾル	乾性ポドゾル	乾性ポドゾル化土※
	湿性ポドゾル	湿性ポドゾル化土※
赤黄色土	赤色土	赤色土
暗赤色土	火山性暗赤色土	火山性暗赤色土
褐色低地土	褐色低地土	褐色低地土
		粗粒褐色低地土
灰色低地土	灰色低地土	細粒灰色低地土
		灰色低地土
		粗粒灰色低地土
	灰色台地土	灰色台地土
グライ土	グライ土	細粒グライ土
		グライ土
		粗粒グライ土
	グライ台地土	グライ台地土
泥炭土	高位泥炭土	高位泥炭土
	中間泥炭土	中間泥炭土
	低位泥炭土	低位泥炭土

※ 単独では図示せず、他の土壤統群との組合せ(混在区)で図示した。

る。

3-2-3 留萌地域

留萌北部（幌延町、天塩町、遠別町の一部）は脊梁部の山地をのぞき、新第三紀層の丘陵地であり、広く褐色森林土Ⅱ群域とした。この丘陵地の褐色森林土は埴質緻密で堅果状構造が発達したものが多く、構造深度が浅く、下層が堅密なものが含まれる。表層が還元された土壌が中南部よりも多くあらわれ、一部にはこれと類似のポドゾル化土壌Ⅱ群域がみられる。知駒岳付近には蛇紋岩を母材とするポドゾル化土壌Ⅱ群域がある。

留萌中南部（遠別町の一部、初山別村以南）は低海拔の丘陵地、山地では新第三紀層を、天塩山地脊梁付近では白亜紀層を、また増毛山地では安山岩類をそれぞれ母材にした褐色森林土壌が広く分布する。大部分は褐色森林土Ⅱ群域であり、褐色森林土Ⅰ群域がやや多い。褐色森林土Ⅲ群域は古い地すべり地形の箇所であるものが多い。この地区の土壌も緻密で堅果状構造を伴うものが多く、丘陵地の一部には表層が還元作用をうけたものがみられる。残積性未熟土壌としたのは小崩壊地を含む受食土壌の地区である。天塩山地、増毛山地の高海拔地には褐色森林土-乾性ポドゾル化土壌群域、暗色系褐色森林土-ポドゾル化土壌群がみられる。

（北海道立林業試験場 山根玄一）

表-2 混在相図示単位一覧表（山地・丘陵地について）

土 壤 混 在 区	主要構成土壌（統群）
高山性岩屑土壌 岩石地	高山性岩屑土壌・岩石地（モザイク配列）
岩屑土壌 岩石地	岩屑土壌・岩石地（モザイク配列）
褐色森林土Ⅰ	} 乾性褐色森林土壌（尾根筋）・褐色森林土壌（中腹）・ 湿性褐色森林土壌（斜面下部）のカテナ配列。面積比 で乾性が25%以上をⅠ、湿性が25%以上をⅢ、乾 湿それぞれ25%未満をⅡとした。
褐色森林土Ⅱ	
褐色森林土Ⅲ	
褐色森林土 粗粒火山抛出品未熟土壌	褐色森林土壌・粗粒火山抛出品未熟土壌
褐色森林土 くろぼく土	褐色森
褐色森林土 乾性ポドゾル化土壌	褐色森
暗色系褐色森林土 ポドゾル化土壌	暗色系褐色森林土壌（山腹）・ポドゾル化土壌（主に乾 性、尾根筋）
ポドゾル化土壌Ⅰ	乾性ポドゾル化土壌・暗色系褐色森林土壌・褐色森林土 壌
ポドゾル化土壌Ⅱ	湿性ポドゾル化土壌・乾性ポドゾル化土壌・暗色系褐色 森林土壌・褐色森林土壌
ポドゾル化土壌 高山性岩屑土壌	ポドゾル化土壌（主に乾性、ハイマツ群落下）・高山性 岩屑土壌

3-3 台地および低地の土壌

3-3-1 全域の概説

宗谷地域の農牧地および農牧適地の主体は褐色森林土（Ⅱ、Ⅳ）がもっとも広く、低地土および泥炭土がこれに次いでいる。これに対して留萌地域では低地土がもっとも広く、泥炭土、擬似グライ土がこれに次いでいる。

土地利用からみると、留萌中部以北はほとんどが草地酪農経営であるが、以南は稲作経営が主体となっている。

3-3-2 宗谷地域

土壌の分布とその特徴：台地および低地の土壌は、約158000haで、宗谷地域総面積の20%を占めている。このうち未熟土は、5%で、そのほとんどが海岸沿いの砂丘未熟土に属し、奮植層をもたない全く未風化な砂浜をなしているものが広いが、わずかに腐植層をもつものも存在する。くろぼく土も5%で、利尻火山に由来するローム質のもので、物理性は良いが肥沃度は低い。褐色森林土は、39%におよび丘陵性のものと洪積台地のものとに区分されるが、いずれも強酸性で肥沃度は低く、とくに台地のものは重粘で物理性も悪い。なお、わずかに1%程度の面積にすぎないが、浜頓別一猿払の海岸には北海道内でも、低地では唯一と考えられる典型的な砂丘ポドゾルがみられる。褐色低地土は8%で地味が高い。灰色低地土は、10%でほとんどが細粒質、比較的地味の高いものが多い。灰色台地土は主としてオホーツク海面の台地に分布し（9%）、強酸性に加えて重粘・堅密で透水性悪く土地利用上の問題が多い。泥炭土は主要な河川下流域に広く分布する（20%）。低位泥炭土が主であるが強酸性を呈し排水の困難な土地も多い。

地質と土壌の関係：本地域の地質は、細粒質の堆積岩が主体を占めている。また稚内市、豊富町に広く分布する第三紀層に属する声問層シルト岩など弱固結が多く、このため風化土壌は細粒質で礫質でないものが多い。また、これら母岩は塩基含量が極めて乏しく生成土壌にもその影響を与えている。

気候と土壌の関係：本地域は北海道でも最北端部に位置し、平地でもポドゾル出現の可能性のある気候帯に属している。しかし、実際には浜頓別付近に典型的な砂丘ポドゾルがみられるほかは、局部的にしかポドゾルは認められない。この理由としては前記のような埴質土壌、または、利尻火山灰の影響を受けている土壌の多い点などが考えられる。しかし、このような気候の影響は、母材とともに土壌の塩基状態に著しく反影しており、堆積の新しい低地土以外の土壌は、いずれも強い洗脱を受け極めて貧塩基の状態にある。

地形と土壌の関係：本地域内の丘陵地（残積性土壌）は21%におよぶが、この中では前記稚内市、豊富町に分布する声問層シルト岩を基盤とする緩波状地形のものが多い。洪積台地は、32%で褐色森林土や灰色台地土の重粘性土に属するものが27%、くろぼく土に属するものが5%存在する。低地は42%を占めているが、このうち沖積低地と泥炭地とが相半ばしている。このほか砂丘地が5%存在する。

土地利用、土壌改良：本地域内は寒冷気候のため水田の分布は無い。往時は、内陸地域で低地を中心として馬鈴薯を主とした農業が行なわれていたが、戦後は海岸地域も含めて広く開拓が行なわれた。そして現在は、不安定な畑作営農は改められ、ほとんどが草地酪農経営となった。土壌改良としては、寒冷気候で、とくに湿害をうけやすい環境のため、広く分布する排水不良地の排水が先決とされ、泥炭地やとくに灰色台地土などでは大規模かつ綿密な排水施行が行なわれた。また、化学性でも前述のようにほとんどの土壌が塩基欠乏の強酸性土壌に属しているため、この矯正とその他泥炭地の客土、

重粘性土壌の砂客土、心土破碎なども行なわれている。なお本地域内には、湿草原野となっている排水困難な泥炭地がかなり広く残存している。

3-3-3 留萌地域

土壌の分布とその特徴：台地および低地の土壌は約84,000 haで、留萌地域総面積の21%を占めている。このうち未熟土は4%で、すべて海岸沿いの低地に分布する砂丘未熟土である。この土壌は保水力や養分保持が劣る。表層にまったく腐植層をもたないものと、その薄層をもつものがある。褐色森林土は11%で丘陵に分布するもの(4.7%)と段丘に分布するもの(6.6%)があるが、ともに強酸性を呈する酸性褐色森林土である。肥料や水分の保持力はあるが、養分は乏しい。当地域の比較的平坦な台地には、この他に灰色台地(擬似グライ土)が広く(17%)分布している。地形の点や肥料の保持力には恵まれているが、重粘堅密で透水、保水両面で劣り、さらに強酸性を呈する。河水流域に分布する低地土は50%を占め、褐色低地土6%、グライ土は20%となっている。このうち褐色低地土はもっとも肥沃で、物理的、化学的性質が最良の土壌である。灰色低地土とグライ土は台地の土壌に比較すると養分は多いが、排水不良が難点である。泥炭土は18%に達する広大な面積を占めている。高位泥炭土(1%)、中間泥炭土(5%)もあるが低位泥炭土(12%)が最も広い。平坦な点はよいが、排水不良、地盤軟弱、強酸性、養分欠乏など理化学性が不良である。

地質と土壌の関係：台地、低地に分布する土壌の大部分(73%)は、第三紀層の細粒質堆積岩またはその風化二次堆積物を母材としているために、砂丘未熟土を除く大半の鈹質土壌は埴土ないし埴壤と言う粘質土である。とくに天塩周辺では漬物用の石も手近に得られない程である。したがって、透水性の点でも問題のある土壌が多いことになる。北部の間寒別付近には蛇紋岩に由来する土壌が約3%あって、マグネシウムばかりでなくニッケル含量が高く農業利用と難点がある。南端の増毛には暑寒別岳周辺の火山岩風化二次堆積物が母材になっている土壌が分布(離島を含めて4%)し、やや粗粒で排水良好なためリンゴ、ブドウ園に利用されている。天売、焼尻島の土壌の母材も増毛に類似している。

気候と土壌の関係：留萌は南北に細長いので、北部と南部では、気候がかなり異なって、年平均気温は5.3~8.1℃にわたり、これに対して降水量は1,075~1,341mm、したがって雨量係数は1.40~2.10と言う多湿地域である。このため土壌の養分は下層に流亡しやすく、ごく堆積時代の新しい(数百年位)低地土以外はほとんどすべて酸性になっている。また北部では、未耕地に針葉樹の比率が高く、標白層や下層に腐植、粘土の被膜をもった土壌が見られる。気候は直接農業に影響し、天塩以北では水田が分布しない。全体として、風が強く海岸線における浸食が激しい。

地形と土壌の関係：留萌と空知、上川の境には海岸線とほぼ平行に天塩山地がちなっている。この山地から日本海へくしの歯のように多数の河川が流入している。このような地形のために、農耕地は海岸より少し奥に入った川の流域に集中している。北部では天塩川下流の低地、海岸砂丘の後背地に広大なサロベツ泥炭が広がっている。本地域の土壌の73%(砂丘未熟土、褐色および灰色低地土グライ土および泥炭土)が低地に、22%(褐色森林土Ⅳ、灰色台地土)が段丘に、5%(褐色森林土Ⅱ)が丘陵に分布している。これらのうち36%が傾斜地で、土壌浸食がみられる。

土地利用、土壌改良：天塩以北には、寒冷気候と湿性で重粘な土壌が多いことから、水田は分布せず草地利用が主で褐色低地土と褐色森林土Ⅳの一部が畑に利用されている。遠別以南では、低地土は水田が主で、褐色森林土、灰色台地土は、林地の他に草地および畑に利用されている。南端のリンゴ園は、主として褐色低地土を利用している。

地域全体として、農業利用率の高い順は、褐色低地—その他の低地土—褐色森林土Ⅳ—灰色台地—

褐色森林土Ⅱ一砂丘未熟土の順になっており泥炭土はもっとも低い。今後、草地の拡大などに利用の可能性のある土壤に、灰色台地土、泥炭土、褐色森林土であろう。利用の際には、種々の改良が必要である。排水の必要な土壤は63%、客土が望ましい土壤は22%、心土破碎が必要なものは35%、浸食防止対策を要するものは35%、酸性矯正を要するものが87%である。

(北海道農業試験場 富岡悦郎)

(現農業技術研究所 天野祥司)

4. 土地利用可能性分級の概要

4-1 土地利用現況等の概要

宗谷・留萌地域（行政区域としては宗谷支庁及び留萌支庁管内）は、北海道の最北端部から北西部にかけて位置し、三方はそれぞれ宗谷海峡、オホーツク海、日本海に面し、一方は増毛山地、天塩山地及び北見山地に接する面積8105 Km^2 （本道総面積の約10%）、人口約20万5千（本道総人口の約4%）の地域である。

本地域のほぼ中央部を北から南にかけて宗谷丘陵及び天塩山地が延びており、日本海に注ぐ天塩川声間川及びオホーツク海に注ぐ猿払川、頓別川等の流域には、それぞれ平野が形成されているが、泥炭地で未開発の部分が多い。これらの平野のうち最も面積の大きいのは天塩平野で、特にその一部をなすサロベツ原野は、約2万haに及ぶ広大な泥炭地で、低地泥炭地、中間泥炭地、高位泥炭地から形成されており、景観に優れ学術的にも貴重な植物群落が存在する。

本地域の気候は、気候区分からみる図-1および表-3のとおり「日本海側-北部」、「オホーツク海側-北部」として区分される。

「日本海側-北部」に属する区域では、平均気温は、留萌市、羽幌町付近で7℃、これより北部になると6℃とやや低くなる。また、最暖月平均気温は20℃前後、最寒月平均気温は-5℃～8℃である。

年間降水量は、1,000mm～1,200mmの天塩町周辺を除き、区域の大部分は1,200mm～1,400mmである。

初雪は10月下旬頃にみられ、翌年の4月初旬まで降雪が続くが、積雪量は平野部で1m前後、天塩山地付近では3mに達することもある。

「オホーツク海側-北部」の気候をみると、年平均気温は5℃～6℃で概して日本海側の気温より1℃～2℃低めである。また、最暖月平均気温は18℃～20℃、最寒月平均気温は-7℃～-9℃であるが、流水の影響で最低気温が-20℃以下に達することもある。

年間降水量は、稚内市、浜頓別町周辺で1,000mm～1,200mm前後、枝幸町及び山間部では、1,200mm～1,400mmである。

また、冬期間は日本海側と同様、雪の降る日が多く、しばしば豪雪に見舞れることがある。なお、宗谷、留萌地域のうち浜頓別町、中頓別町及び離島を除く地域は、特別豪雪地帯に指定されている。

本地域の土地利用現況をみると、B統計の部表1-1に示すとおり、地域の大部分を占めているのは林地で、地域面積の約76%（6116 Km^2 ）を占め、次いで農用地が約14%（1158 Km^2 ）、宅地及びその他が約10%（831 Km^2 ）となっている。

・農用地

(1) 農地

本地域の農地面積は、646 Km^2 で地域総面積の約8%、農用地面積の約56%を占めている。農地のうち水田については、本地域の遠別町が本道における稲作の北限といわれているように、その面積は留萌支庁管内の93 Km^2 のみで、農地面積の約14%を占めているに過ぎない。

畑地は553 Km^2 で、農地面積の約86%を占めているが、気候が冷涼なためその約95%は牧草畑であり、また普通畑には馬鈴しょ、てん菜等が多く栽培されている。

図-1 北海道の気候区分図

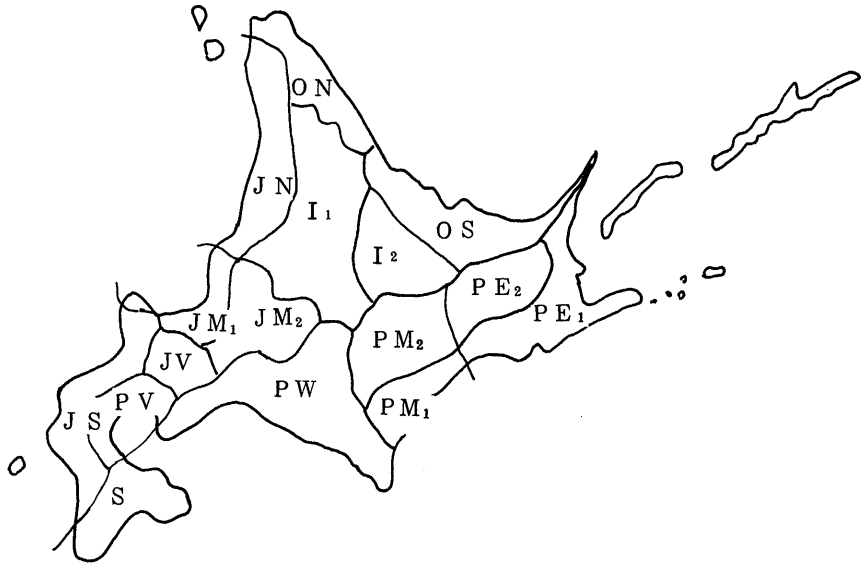


表-3 北海道の気候区分

区		分		年平均気温	最暖月平均 気温	最寒月平均 気温	降水の特徴	その他特殊事項
S	南 端 部			8～9℃	21～23℃	-2～-4℃	早春季少し	夏季及初秋豪雨あり
JS	日 本 海 側	南 部		8内外	21～22	-3～-5	晩春季少し	
JM1		中 部	沿 岸				-4～-6	春季少し
JM2			平 野	7内外	-6～-8			
JN		北 部		6～7	20内外	-5～-8	早春季少し	
JV		後志火山地域		5～6	21～22	-7～-9	春季少し	積雪多し
PV	太 平 洋 側	噴火湾沿岸		7～8	21～22	-5内外	早春季少し	
PW		胆振日高沿岸					-5～-8	冬季少し
PM1		十 勝	沿 岸	6内外	18～20	-7～-10	初夏霧多し	
PM2			平 野		20～21	-10～-11		
PE1		根 釧	沿 岸	3～6	17～19	-7～-8	初夏濃霧多し	
PE2	平 野		20内外		-8～-10	初夏霧多し		
OS	オ ク ホ 海 側	南 部		5～7	20内外	-7～-9	冬季春季共 少し	流水多し
ON		北 部		5～6			18～20	
I1	内 陸	盆 地 部		5～6	20～22	-9～-11	早春季少し	北部積雪多し
I2		山 岳 部		4～5	20内外	-11以下		積雪多し

(札幌管区气象台資料)

なお、牧草畑については、近年、酪農の進展に伴い年々増大の傾向をたどっており、昭和43年には約3万1千haであったものが、52年には2倍強の約6万9千haとなっている。

また、留萌支庁管内の増毛町では、りんご、梨などの果樹が栽培されている。

(2) 草地

利用草地（永年牧草地、自然草地）と未利用草地（原野）を併せた草地面積は、512km²で地域面積の約6%を占めている。未利用草地（原野）は、天塩川下流の低湿地帯、宗谷岬の丘陵地、猿払川、頓別川等の各河川の流域などに分布しているが、本地域における酪農の振興を図るため、農用地開発事業等により逐次土地利用の高度化が進められている。

・林地

林地のうち森林面積は、5,881km²で全道森林面積の約11%、地域面積の約73%を占めている。所有区分別にみると、主として天塩山地一帯から宗谷丘陵にかけて分布している国有林は、3,212km²で森林面積の約55%を占めており、次いで私有林が2,267km²で約38%、公有林は402km²で約7%となっている。

人工林率は、約16%で、全道平均（約23%）を下回っている。

また、森林のうち、未立木地及び伐採跡地を採草放牧地に利用している面積は、6km²のみである。林相は、地域によって多少異なるが、トドマツ、エゾマツを主体とする針葉樹林が大部分である。また、過去における乱伐や自然災害等により、厳しい自然条件と相まって随所に無立木化した地帯がみられる。

なお、水源かん養あるいは土砂流出防止など国土保全上必要な林地は、保安林として441km²が指定されている。また、学術研究のための森林として、幌延町に北海道大学演習林（約225km²）がある。

・その他

本地域には、日本海に雄大で秀麗な姿を浮かべる利尻島、広大な原生花園のサロベツ原野あるいは天然記念物オロロン鳥の群棲する天売島など優れた自然景観地が多く、このため数多くの自然公園が指定されている。すなわち、国立公園としては、利尻礼文サロベツ国立公園（約212km²）が、道立自然公園としては、北オホーツク道立自然公園（約39km²）をはじめ暑寒別道立自然公園（地域内約176km²）、朱鞠内道立自然公園（地域内約12km²）、天売焼尻道立自然公園（約11km²）が指定されている。このほか、北海道自然環境等保全条例に基づく環境緑地保護地区が約26km²、自然景観保護地区約78km²、学術自然保護地区約0.3km²がそれぞれ指定されている。

また、天然記念物として天売島海鳥繁殖地（羽幌町）、中頓別鍾乳洞（中頓別町）、利尻島のチツマザクラ自生地（利尻町）などが指定されている。

都市的な土地利用についてみると、本地域の2市3町に、都市計画区域が指定されており、その面積は約118km²で地域面積の約1.5%となっている。このうち留萌市には約44km²、稚内市に約23km²が指定されているが、ともに本地域における産業経済の中心都市として重要な位置を占めている。

（北海道開発調整部土地水対策課 岩間勝久）

4-2 土地利用可能性分級の地域別概要

- 1 類地は、幌延にのみ分布する。林地では、土壌は褐色森林土壌Ⅲ、総面積の0.05%にすぎない。
- 2 類地は、農地では各地の河川流域に分布する褐色低地土壌と一部灰色低地土壌、林地では標高600m以下、傾斜8°以下の褐色森林土壌Ⅱが含まれる。面積は5.3%である。
- 3 類地は、4 類地に次いで広く全域に分布し(33.0%)、農地ではくろぼく土壌、褐色森林土壌Ⅱ、Ⅳ、粗粒褐色低地土壌、細粒の灰色低地土壌、グライ土壌および低地泥炭土壌が含まれる。林地では、大部分が標高600m以下、傾斜15°以下の褐色森林土壌Ⅱである。
- 4 類地は、最も広く(49.4%)、農地では砂丘未熟土壌、灰色台地土壌および中間、高位泥炭土壌で、林地では、大部分が標高600m以下、傾斜30°以下の褐色森林土壌Ⅱが含まれる。
- 5 類地は、中頓別、幌延、遠別および増毛などに分布する標高1,000m以下、傾斜40°以下の褐色森林土壌Ⅱが主で面積は8.0%である。
- 6 類地は歌登、増毛などに分布する標高1,000m以下、傾斜40°以下の褐色森林土壌-ポドゾル化土壌、暗色系褐色森林土壌-ポドゾル化土壌が主で、面積は2.8%である。
- 7 類地は、利尻、東利尻、礼文および増毛などに分布する岩石地や標高1,000m以上が、傾斜40°以上の高山性岩屑土壌-岩石地、暗色系褐色森林土壌-ポドゾル化土壌などが含まれる。面積は0.7%にすぎない。
- 8 類地は、市街地、湖、河川等で面積は0.8%である。

(北海道農業試験場 富岡悦郎)

B. 統 計 の 部

B. 統 計 の 部

1. 土地利用現況

1-1 市町村別土地利用現況面積内訳

区分 市町村	農地									草地		
	田			畑					農地計	利用草地		
	普通田	特殊田	計	普通畑	牧草畑	樹果園	桑園その他	地計		永牧草地	自然草地	計
稚内市	—	—	—	1	72	—	—	—	73	24	17	41
猿払村	—	—	—	0	38	—	—	—	38	14	1	15
浜頓別町	—	—	—	1	36	—	—	—	37	13	3	16
中頓別町	—	—	—	1	29	—	—	—	30	3	1	4
枝幸町	—	—	—	1	58	—	—	—	59	9	1	10
歌登町	—	—	—	2	35	—	—	—	37	8	1	9
豊富町	—	—	—	2	87	—	—	—	89	23	5	28
礼文町	—	—	—	0	0	—	—	—	0	0	0	0
利尻町	—	—	—	1	0	—	—	—	1	0	0	0
東利尻町	—	—	—	1	0	—	—	—	1	0	0	0
地域計	—	—	—	10	355	—	—	—	365	94	29	123
留萌市	10	—	10	1	0	0	—	0	11	2	0	2
増毛町	6	—	6	1	0	1	—	1	8	1	0	1
小平町	21	—	21	1	—	0	—	0	22	0	0	0
苫前町	17	—	17	2	8	0	—	0	27	3	1	4
羽幌町	0	—	20	2	3	—	—	—	25	1	0	1
初山別村	8	—	8	1	3	0	—	0	12	4	1	5
遠別町	11	—	11	4	17	0	—	0	32	6	2	8
天塩町	—	—	—	1	87	—	—	—	88	7	3	10
幌延町	—	—	—	1	55	—	—	—	56	4	1	5
地域計	93	—	93	14	173	1	—	1	281	28	8	36
宗谷・留萌地域計	93	—	93	24	528	1	—	1	646	122	37	159

- (注) 1. 合計面積は、昭和51年全国都道府県市区町村別面積(建設省国土地理院：昭和51年10
 2. 農地は、昭和52年版北海道農業基本調査結果報告書(北海道：昭和52年2月1日現
 3. 草地のうち利用草地については(注)2の資料による。
 4. 未利用草地(原野)は、昭和50年林野面積統計(農林省農林統計局統計情報部：昭和
 5. 宅地は、昭和51年固定資産の概要調書(北海道：昭和51年1月1日現在)による。
 6. その他は、合計面積から(注)2～5の面積を差し引いて算出した。

(単位：Km²)

地		林 地											宅 地	そ の 他	合 計
未利(原 用草野 地)	草 地 計	森						林			除新 地困 ・難 困地	林 地 計			
		人 工 林			天 然 林			未立木地・伐採跡地							
		針 葉 樹	広 葉 樹	計	針 葉 樹	広 葉 樹	計	採 草 放 牧 に 利 用 し て い る 土 地	そ の 他	計					
32	73	59	8	67	88	183	271	—	85	85	4	427	4	191	768
28	43	49	1	50	177	193	370	—	25	25	2	447	1	59	588
40	56	46	0	46	50	151	201	—	10	10	12	269	1	39	402
4	8	61	0	61	82	168	250	—	16	16	6	333	1	26	398
19	29	73	2	75	45	232	277	—	15	15	6	373	2	47	510
9	18	96	1	97	82	281	363	—	26	26	13	499	1	66	621
120	148	71	2	73	34	125	159	—	30	30	12	274	1	12	524
4	4	5	1	6	10	13	23	—	33	33	3	65	0	13	82
6	6	5	1	6	14	16	30	—	10	10	14	60	1	7	75
4	4	8	1	9	20	22	42	—	13	13	21	85	1	17	108
266	389	473	17	490	602	1,384	1,986	—	263	263	93	2,832	13	477	4,076
5	7	64	2	66	11	155	166	1	9	10	9	251	4	19	292
6	7	33	1	34	14	248	262	1	6	7	24	327	1	30	373
4	4	101	3	104	35	397	432	0	12	12	17	565	1	35	627
1	5	53	3	56	54	245	300	0	12	12	26	394	1	27	454
2	3	59	1	60	47	265	312	0	12	12	21	405	3	41	477
1	6	29	0	29	23	171	194	0	3	3	12	238	1	25	282
0	8	58	1	59	47	371	418	1	13	14	23	514	1	38	593
20	30	37	1	38	25	126	151	1	7	8	3	200	1	36	355
48	53	39	3	42	108	202	310	2	29	31	7	390	1	96	576
87	123	473	15	488	364	2,180	2,545	6	103	109	142	3,284	14	327	4,029
353	512	946	32	978	966	3,564	4,531	6	366	372	235	6,116	27	804	8,105

月1日現在)による。
要覧(北海道:昭和52年3月現在)によった。
在による。)

50年1月1日現在)による。
現在)による。

2. 自然的土地条件

2-1. 市町村別傾斜区分別面積内訳

(単位： Km^2)

傾斜区分 市町村	S ₁ 0° } 3°	S ₂ 3° } 8°	S ₃ 8° } 15°	S ₄ 15° } 20°	S ₅ 20° } 30°	S ₆ 30° } 40°	S ₇ 40° 以上	未区分	計
稚内市	191	141	227	178	26	—	—	5	768
猿払村	183	65	160	122	56	—	—	2	588
浜頓別町	104	29	53	92	90	20	—	14	402
中頓別町	23	10	109	90	73	90	3	—	398
枝幸町	104	25	149	103	125	4	—	—	510
歌登町	40	40	137	85	232	87	—	—	621
豊富町	248	86	73	55	58	—	—	4	524
礼文町	—	8	28	21	22	3	—	—	82
利尻町	14	44	8	—	3	4	2	—	75
東利尻町	18	52	15	—	13	3	7	—	108
地域計	925	500	959	746	698	211	12	25	4,076
留萌市	18	6	92	105	62	9	—	—	292
増毛町	23	40	81	11	129	85	—	—	373
小平町	34	10	68	189	252	74	—	—	627
苫前町	55	5	42	87	221	44	—	—	454
羽幌町	67	12	34	160	155	49	—	—	477
初山別村	40	25	42	49	90	36	—	—	282
遠別町	68	—	116	116	160	133	—	—	593
天塩町	143	50	68	43	47	4	—	—	355
幌延町	175	15	97	89	140	56	—	4	576
地域計	623	163	640	849	1,256	490	4	4	4,029
宗谷・留萌地域計	1,548	663	1,599	1,595	1,954	701	16	29	8,105

2-2. 市町村別標高区分別面積内訳

(単位：km²)

市町村	標高区分									計
	0m 100m	100m ∩ 200m	200m ∩ 400m	400m ∩ 600m	600m ∩ 800m	800m ∩ 1000m	1000m ∩ 1500m	1500m 以上	未区分	
稚内市	587	167	9	—	—	—	—	—	5	768
猿払村	438	127	21	—	—	—	—	—	2	588
浜頓別町	232	83	52	17	4	—	—	—	14	402
中頓別町	89	145	116	37	10	1	—	—	—	398
枝幸町	191	124	146	42	6	1	—	—	—	510
歌登町	98	160	206	88	51	16	2	—	—	621
豊富町	395	111	14	—	—	—	—	—	4	524
礼文町	37	26	17	2	—	—	—	—	—	82
利尻町	22	15	17	9	5	3	4	—	—	75
東利尻町	37	22	23	9	7	5	4	1	—	108
地域計	2,126	980	621	204	83	26	10	1	25	4,076
留萌市	143	98	47	3	1	—	—	—	—	292
増毛町	39	49	100	77	57	35	16	—	—	373
小平町	184	213	187	30	9	4	—	—	—	627
苫前町	150	107	176	16	3	2	—	—	—	454
羽幌町	112	127	183	46	6	3	—	—	—	477
初山別村	115	72	88	12	—	—	—	—	—	282
遠別町	190	122	188	75	13	5	—	—	—	593
天塩町	295	51	9	—	—	—	—	—	—	355
幌延町	347	157	62	6	—	—	—	—	4	576
地域計	1,575	996	1,035	265	89	49	16	—	4	4,029
宗谷・留萌地域計	3,071	1,976	1,656	469	172	75	26	1	29	8,015

2-3 市町村別地形区分別面積内訳

(単位: Km²)

市町村	山地・火山地					丘陵地		
	大起伏	中起伏	小起伏	山麓地	計	大起伏	小起伏	計
稚内町	—	—	—	—	—	146	276	422
猿払村	—	—	4	—	4	158	129	287
浜頓別町	—	21	78	5	104	96	32	128
中頓別町	—	47	116	19	182	133	7	140
枝幸町	—	5	224	22	251	65	—	65
歌登町	—	75	297	31	403	104	19	123
豊富町	—	—	2	—	2	82	146	228
礼文町	—	—	45	—	45	6	5	11
利尻町	11	—	1	63	75	—	—	—
東利尻町	22	—	8	77	107	—	—	—
地域計	33	148	775	217	1,173	790	614	1,404
留萌市	—	3	100	—	103	154	—	154
増毛町	49	141	129	—	319	23	—	23
小平町	—	33	379	5	417	130	10	140
苫前町	—	8	269	4	281	59	9	68
羽幌町	—	8	324	6	338	33	—	33
初山別村	—	—	128	—	128	66	—	66
遠別町	—	17	316	—	333	143	24	167
天塩町	—	—	30	—	30	179	—	179
幌延町	—	—	98	—	98	228	66	294
地域計	49	210	1,773	15	2,047	1,015	109	1,124
宗谷・留萌地域計	82	358	2,548	232	3,220	1,805	723	2,528

(単位：Km²)

台地・段丘				低地				未区分	計
砂礫	ローム	岩石	計	扇状地性	三角州性	自然堤防砂州	計		
122	3	19	144	48	109	40	197	5	768
142	—	3	145	27	103	20	150	2	588
61	—	4	65	17	64	10	91	14	402
34	—	8	42	34	—	—	34	—	398
148	—	12	160	29	—	5	34	—	510
40	—	14	54	41	—	—	41	—	621
29	40	22	91	27	150	22	199	4	524
7	—	13	20	1	3	2	6	—	82
—	—	—	—	—	—	—	—	—	75
—	—	—	—	—	1	—	1	—	108
583	48	95	721	224	430	99	753	25	4,076
16	—	—	16	14	5	—	19	—	292
13	—	—	13	18	—	—	18	—	373
41	—	—	41	27	2	—	29	—	627
72	—	—	72	31	2	—	33	—	454
65	—	—	65	37	4	—	41	—	477
68	—	—	68	16	4	—	20	—	282
26	—	—	26	41	21	5	67	—	593
9	—	—	9	89	29	19	137	—	355
8	2	1	11	88	59	22	169	4	576
318	2	1	321	361	126	46	533	4	4,029
901	45	96	1,042	585	556	145	1,286	29	8,105

2 - 4. 市 町 村 別 表 層

市町村名	未 固 結 堆 積 物								
	1 粘 土 礫・砂	2 砂	3 粘 土 (シルト)	4 泥 炭	5. 礫	6 碎屑物	7 礫・砂	8 粘 土 砂・礫	計
稚 内 市	14680	641		4006			916	2167	2241
猿 払 村	12000			4400			8840		2524
浜 頓 別 町	7620			3560			2372		13552
中 頓 別 町	2700						550		3250
枝 幸 町	6741			500		400	6620		14261
歌 登 町	5630					777	1362		7769
豊 富 町	9380	671		10660				3390	24101
礼 文 町	947						122		1069
利 尻 町	130				040	3640			3810
東 利 尻 町	400				320	5072			5792
地 域 計	60228	1312		23126	360	9889	20782	5557	121254
留 萌 市	1800		420						2220
増 毛 町	3010								3010
小 平 町	3600								3600
苫 前 町	3360						300		3660
羽 幌 町	3450						570		4020
初 山 別 村	2374								2374
遠 別 町	6300						310		6610
天 塩 町	11500			4460			310		16270
幌 延 町	9900	332		5260					15492
地 域 計	45294	332	420	9720			1490		57256
合 計	1,05522	1644	420	32846	360	9889	22272	5557	1,785.10

地質分布面積内訳

半固結～固結堆積物										
9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	
礫岩	砂岩	泥岩	砂岩・泥岩互層	礫岩砂岩	泥岩	粘板岩	砂岩・泥岩互層	珪岩質岩石(チャート)	石灰岩	計
	12932	15008	15930		10020					5389
	7700		12028		11270	1100				32098
	6400	4144	436		7942	256	628	830		20636
	10030				16400	130	100	1120		27780
	5659				1803	3265		060		10787
	25476				3763			454		29693
	5788	10982	7967		3162					27899
	106	1161	931		828					3026
					193					193
	74091	31295	37292		55381	4751	728	2464		206002
	2240	10300	13470				970			26980
	4210	6480	440							11130
	600	3500	31000		7300		16700			59100
	1374	2323	32391		3631		2021			41740
	300	4410	26950	530	8540		1400			42130
	1218	3867	20641							25726
	7900	13400	26620	3570	1200					52690
	14000	5230								19230
	12276	12226	6504		2436	536	1508			35486
	44118	61736	158016	4100	23107	536	22599			314212
	1,18209	93031	1,95303	4100	78488	5287	23327	2464		5,20214

市町村名	火山性岩石										
	19 火山灰	20 ローム	21 軽石流 堆積物	22 火山 砕屑物	23 凝灰岩 質岩石	24 火山角礫 岩質岩石	25 流紋岩 質岩石	26 安山岩 質岩石	27 玄武岩 質岩石	28 輝緑岩質 凝灰石	計
稚内市											
猿払村											
浜頓別町			124				200			3640	3964
中頓別町								3170		3200	6370
枝幸町					180	4217		9366		1542	15305
歌登町			182		1897	4994	252	14781		686	22792
豊富町											
礼文町						3541		141	260	163	4105
利尻町								1230	2460		3690
東利尻町								2429	2386		4815
地域計			306		2077	12752	452	31117	5106	9231	61041
留萌町											
増毛町						2000		21160			23160
小平町											
苫前町											
羽幌町						1550					1550
初山別村											
遠別町											
天塩町											
幌延町						326					326
地域計						3876		21160			25036
合計			306		2077	16628	452	52277	5106	9231	86077

(単位：K³)

深 成 岩 類					変 成 岩 類				その他 (湖・沼 河川等)	合 計	備 考
29 斑岩	30 花崗岩 質岩石	31 ばれい 岩質岩石	32 蛇紋岩 質岩石	計	33 ホルン フェルス	34 結晶片岩 質岩石	35 片麻岩 質岩石	計			
									5.00	768	
			12.62	12.62					2.00	588	
			6.48	6.48					14.00	402	
			24.00	24.00						398	
	6.81	18.93		25.74	80.73			80.73		510	
		6.36	1.51	7.87	10.59			10.59		621	
									4.00	524	
										82	
										75	
										108	
	6.81	25.29	44.61	76.71	91.32			91.32	25.00	4076	
										292	
										373	
										627	
										454	
										477	
									1.00	282	
										593	
										355	
			5.896						4.00	576	
			5.896						5.00	4029	
	6.81	25.29	103.57	135.67	91.32			91.32	30.00	8105.00	

2 - 5. 市町村別土壤

土壤群 土壤統群 または 混在区 市町村	岩石地・岩屑土			未熟土				
	高山性 岩石土 壤地	岩岩 石石 土土 壤地	計	残積性 未熟土 壤	砂丘 未熟土 壤	湿性砂 丘未熟 土壤	粗粒火 山拋出 物	未熟土 壤
稚内市	0	280	280	0	2055	873	0	2928
猿払村	0	0	0	0	651	0	0	651
浜頓別町	0	0.52	0.52	0	489	0	0	489
中頓別町	0	0.52	0.52	0	0	0	0	0
枝幸町	0	1.41	1.41	0	472	0	0	472
歌登町	0	2.87	2.87	0.46	0	0	0	0.46
豊富町	0	0	0	0	2740	0	0	2740
礼文町	0	1109	1109	878	161	0	0	1039
利尻町	2.65	1642	11.07	2.27	2.27	0	0	4.54
東利尻町	2.23	632	8.55	2.57	1.31	0	5.13	9.01
宗谷地域計	4.88	41.95	46.83	14.08	69.26	873	5.13	97.20
留萌市	0	0.83	0.83	1.67	0.86	0	0	2.53
増毛町	0	11.37	11.37	0.17	1.01	0	0	1.18
小平町	0	9.83	9.83	12.70	3.03	0	0	15.73
苫前町	0	1.20	1.20	12.80	2.68	0	0	15.48
羽幌町	0	2.35	2.35	8.65	0.72	0	0	9.37
初山別村	0	0	0	4.09	1.95	0	0	6.04
遠別町	0	1.13	1.13	8.69	1.89	0	0	10.58
天塩町	0	0	0	0	13.67	0	0	13.67
幌延町	0	0	0	0	14.85	0	0	14.85
留萌地域計	0	26.71	26.71	48.77	40.66	0	0	89.43
宗谷・留萌地域計	4.88	68.66	73.54	62.85	109.92	873	5.13	186.63

統計群分布面積内訳

く ろ ぼ く 土				
累層くろぼく土壌	くろぼく土壌 ローム質くろぼく	湿性くろぼく土壌 ローム質くろぼく	淡色くろぼく土壌 ローム質くろぼく	計
0	2927	0	398	3325
0	0	0	0	0
0	0	0	0	0
0	0	0	0	0
0	0	0	0	0
0	0	0	0	0
0	4834	0.70	214	5118
0	0	0	0	0
213	0.13	0	139	365
179	1.85	0	149	513
392	79.59	0.70	900	9321
0	0	0	0	0
0	0	0	0	0
0	0	0	0	0
0	0	0	0	0
0	0	0	0	0
0	0	0	0	0
0	0	0	0	0
0	0	0	0	0
0	0	0	0	0
0	0	0	0	0
0	0	0	0	0
0	0	0	0	0
0	0	0	0	0
0	0	0	0	0
392	79.59	0.70	900	9321

土 壤 群		褐 色 森 林 土								計
土 壤 統 群 また 混 在 区 市 町 村	褐色森林土壌Ⅰ	褐色森林土壌Ⅱ	褐色森林土壌Ⅲ	褐色森林土壌Ⅳ	褐色森林土壌Ⅴ	粗粒火砕土 未熟土 堆積物	褐色森林土壌Ⅰ	ポドゾル化土壌Ⅰ	ポドゾル化土壌Ⅰ	
	稚 内 市	0	51265	0	2043	0	384	168	0	58360
猿 払 村	0	26275	267	14106	0	0	495	0	41148	
浜 頓 別 町	0	20803	0.52	2083	0	0	553	0	23491	
中 頓 別 町	0.52	29798	0	470	0	0	804	223	31347	
枝 幸 町	0	36548	1.64	7699	0	0	0.45	0	44456	
歌 登 町	0	48733	0	1376	0	0	2223	3206	55538	
豊 富 町	0	27784	0	1.85	0	0	0	0	27969	
礼 文 町	0	3238	0	5.79	0	0	3.14	0	4131	
利 尻 町	0	1653	0	0	0	379	1073	0	3105	
東 利 尻 町	0	1680	0	0.30	1138	2809	1383	0	7040	
宗 谷 地 域 計	0.52	247777	483	28571	1138	3572	7058	3429	292080	
留 萌 市	0.30	23582	0.61	601	0	0	0	0	24274	
増 毛 町	1.25	21987	0	258	0	0	4296	5098	31764	
小 平 町	5.49	50533	672	925	0	0	320	557	53556	
苫 前 町	17.36	33999	360	1517	0	0	0.72	1.52	37836	
羽 幌 町	20.33	36656	0.38	0.51	0	0	0	4.02	39180	
初 山 別 村	9.36	19656	0.39	357	0	0	0.16	0	21004	
遠 別 町	0	48613	0	1.11	0	0	0.30	15.11	50356	
天 塩 町	0	16800	0	14.13	0	0	0	4.45	18658	
幌 延 町	0	33818	0.16	301	0	0	0.16	0	34151	
留 萌 地 域 計	55.00	285644	11.86	5534	0	0	4750	8165	310779	
宗 谷・留 萌 地 域 計	55.02	533421	1669	34105	1138	3572	11808	11594	602858	

ポドゾル				褐色低地土			灰色低地土				
ポドゾル 化土壌 Ⅰ	ポドゾル 化土壌 Ⅱ	ポドゾル 化土壌 Ⅰ	高山性 岩屑土 壌	計	褐色 低地 土壌	粗粒 灰色 低地 土壌	計	細粒 灰色 低地 土壌	灰色 低地 土壌	粗粒 灰色 低地 土壌	計
0	0.40	0	0.40	0.28	0.81	1.09	3479	0.96	4.93	40.68	
10.29	0	0	10.29	8.68	0	8.68	3113	0	0	31.13	
8.03	3.71	0	11.74	1.63	3.74	5.37	2111	2.25	0	23.36	
0	24.12	0	24.12	20.73	5.99	26.72	1744	0	0	17.44	
0	0	0	0	13.02	4.11	17.13	2.88	6.45	0	9.33	
0	0	0	0	42.33	2.39	44.72	1219	0	0	12.19	
0	0	0	0	1.00	0	1.00	27.46	0	1.43	28.89	
0	0	0	0	0	0.34	0.34	1.71	0	0	1.71	
0	0	7.83	7.83	0.27	7.59	7.86	0	0	0	0	
0	0	5.58	5.58	0	8.33	8.33	0	0	0	0	
18.32	28.23	13.41	59.96	87.94	33.30	121.24	148.71	9.66	6.36	164.73	
0	0	0	0	19.41	0.59	20.00	2.15	0.85	0	2.98	
0	0	3.09	3.09	13.41	1.28	14.69	1.87	3.53	0.80	6.20	
0	0.08	0	0.08	37.76	2.61	40.37	2.50	3.19	0	5.69	
0	0	0	0	13.58	6.62	20.20	9.59	0	0	9.59	
0	0	0	0	23.32	1.55	24.87	4.46	0	0	4.46	
0	0	0	0	9.83	4.22	14.05	3.39	0	0	3.39	
0	0.08	0	0.08	23.39	5.90	29.29	0	3.43	0	3.43	
0	0.29	0	0.29	13.51	1.41	14.92	0	4.90	0	4.90	
0	49.25	0	49.25	16.17	5.81	21.98	0	4.35	2.25	6.60	
0	49.70	3.09	52.79	170.38	29.99	200.37	23.96	20.23	3.05	47.24	
18.32	77.93	16.50	112.75	258.32	63.29	321.61	172.67	29.89	9.41	211.97	

土 壤 群 土壤統群 または 混在区 市 町 村	灰色台地土		グ ラ イ 土				グライ台地土	
	灰色 台地 土 壤	計	細 粒 グ ラ イ 土 壤	グ ラ イ 土 壤	粗 粒 グ ラ イ 土 壤	計	グ ラ イ 台 地 土 壤	計
稚 内 市	3331	3331	5.45	2.88	0	833	0.44	0.44
猿 払 村	3368	3368	6.82	0.06	0	688	0	0
浜 頓 別 町	4326	4326	4.51	0	0	4.51	3.25	3.25
中 頓 別 町	14.60	14.60	0	0	0	0	0	0
枝 幸 町	1991	1991	0.97	0	0	0.97	0	0
歌 登 町	310	310	0	0.23	0	0.23	0	0
豊 富 町	1312	1312	6.86	0.20	0	7.06	2.38	2.38
礼 文 町	1776	1716	0	0	0	0	0	0
利 尻 町	0	0	0	0	0	0	0	0
東 利 尻 町	0	0	0	0	0	0	0	0
								6.07
宗 谷 地 域 計	17814	15922	24.61	3.37	0	27.98	6.07	
留 萌 市	392	392	8.86	6.14	0	15.00	0	0
増 毛 町	1388	1388	2.31	0.60	0.36	3.27	0	0
小 平 町	5.26	5.26	9.74	3.74	0	13.48	0	0
舌 前 町	1822	1822	4.61	4.21	0	8.82	0	0
羽 幌 町	3088	3088	6.48	2.75	0	9.23	0	0
初 山 別 村	4234	4234	4.07	0.96	0	5.03	0	0
遠 別 町	1285	1285	20.64	0.46	0	21.10	0	0
天 塩 町	1718	1718	37.61	18.12	2.34	58.07	0	0
幌 延 町	1539	1539	27.88	10.08	0.04	38.00	0	0
留 萌 地 域 計	15992	15922	122.20	47.06	2.74	172.00	0	0
宗 谷 ・ 留 萌 地 域 計	33806	33806	146.81	50.43	2.74	199.98	6.07	6.07

泥 炭 土 壤						未 区 分 地			
高 位 泥 炭 土 壤	中 間 泥 炭 土 壤	低 位 泥 炭 土 壤	計	氾 濫 原 砂 礫 地	計	市 街 地	河 川 ・ 湖 沼	計	合 計
0.62	5.06	65.14	70.82	0	0	4.00	5.00	9.00	768.00
3.31	22.18	50.91	76.40	0	0	1.00	2.00	3.00	588.00
3.92	14.29	36.98	55.19	0	0	1.00	14.00	15.00	402.00
0	0	0.13	0.13	0	0	1.00	0	1.00	398.00
0.96	0.90	8.11	9.97	0	0	2.00	0	2.00	510.00
0	0	1.05	1.05	0	0	1.00	0	1.00	621.00
14.15	23.95	70.18	108.28	0	0	1.00	4.00	5.00	524.00
0	0	0	0	0	0	0	0	0	82.00
0	0	0	0	0	0	1.00	0	1.00	75.00
0	0	0	0	0	0	1.00	0	1.00	108.00
22.96	66.38	232.50	321.84	0	0	13.00	25.00	38.00	292.00
0	0	0	0	0	0	4.00	0	4.00	292.00
0	0	0.09	0.09	0.59	0.59	1.00	0	1.00	373.00
0	0	0	0	0	0	1.00	0	1.00	627.00
0	0.03	1.10	1.13	0	0	1.00	0	1.00	454.00
0	0	0.81	0.81	0.23	0.23	3.00	0	3.00	477.00
0	0	0.11	0.11	0	0	1.00	0	1.00	282.00
0.01	0.86	8.73	9.60	0.38	0.38	1.00	—	1.00	593.00
5.39	17.96	35.04	58.39	0	0	1.00	—	1.00	355.00
3.38	21.60	58.44	83.42	0	0	1.00	4.00	5.00	576.00
8.78	40.45	104.32	153.55	1.20	1.20	14.00	4.00	18.00	4029.00
31.74	106.83	336.82	475.39	1.20	1.20	27.00	29.00	56.00	8105.00

3. 土地利用可能性分級

3-1. 市町村別土地利用可能性分級別面積内訳

土地利用可能性 分級 市町村	1 類 地	2 類 地	3 類 地	4 類 地
稚 内 市	—	40.25	434.36	276.69
猿 払 村	—	18.23	347.06	219.71
浜 頓 別 町	—	11.61	121.42	234.08
中 頓 別 町	—	13.53	111.91	171.93
枝 幸 町	—	20.90	238.71	236.61
歌 登 町	—	33.52	182.66	269.77
豊 富 町	—	28.19	289.26	201.55
礼 文 町	—	—	13.72	55.89
利 尻 町	—	29.47	17.04	8.98
東 利 尻 町	—	30.55	40.12	12.93
宗 谷 地 域 計	—	226.25	1,796.26	1,688.14
留 萌 市	—	11.92	57.57	206.61
増 毛 町	—	10.32	74.70	139.41
小 平 町	—	29.74	69.44	445.14
苫 前 町	—	16.35	59.81	328.57
羽 幌 町	—	34.01	42.37	335.55
初 山 別 町	—	11.02	52.86	176.96
遠 別 町	—	22.13	148.83	268.68
天 塩 町	—	31.58	183.56	135.17
幌 延 町	0.41	35.98	192.77	282.04
留 萌 地 域 計	0.41	203.05	881.91	2,317.16
宗 谷・留 萌 地 域 計	0.41	429.30	2,678.17	4,005.27

(単位：km²)

5 類 地	6 類 地	7 類 地	8 類 地	合 計
—	770	—	900	76800
—	—	—	300	58800
15.77	4.12	—	15.00	40200
94.28	1.45	390	1.00	39800
4.57	6.09	1.12	2.00	51000
7666	5651	0.88	1.00	62100
—	—	—	5.00	52400
0.51	776	4.12	—	8200
1.20	720	10.11	1.00	7500
4.43	815	10.82	1.00	10800
197.42	9898	30.95	38.00	407600
11.18	0.72	—	4.00	29200
51.58	70.53	2646	1.00	37300
58.98	22.70	—	1.00	62700
39.78	8.49	—	1.00	45400
53.46	7.01	1.60	3.00	47700
39.53	0.63	—	1.00	28200
132.27	20.09	—	1.00	59300
3.69	—	—	1.00	35500
59.36	0.44	—	5.00	57600
449.83	130.61	28.06	18.00	402900
647.25	229.59	59.01	56.00	8105.00

3-2. 土地利用可能性分級と自然条件との関連

3-2-1. 土地利用可能性分級と地形区分との関連

土地利用可能性分級 地形区分	1 類 地	2 類 地	3 類 地	4 類 地
山地・火山地	—	73.17	370.02	1,960.59
丘陵地	0.41	117.33	976.47	1,456.42
台地・段丘	—	60.29	612.08	279.80
低地	—	178.51	719.60	308.46
未区分地	—	—	—	—
合計	0.41	429.30	2,678.17	4,055.27

3-2-2. 土地利用可能性分級と傾斜区分との関連

土地利用可能性分級 傾斜	1 類 地	2 類 地	3 類 地	4 類 地
0°～3° (S ₁)	0.41	236.57	917.40	361.66
3°～8° (S ₂)	—	192.73	314.39	107.35
8°～15° (S ₃)	—	—	1,446.38	91.28
15°～30° (S ₄)	—	—	—	3,444.98
30°～40° (S ₅)	—	—	—	—
40°～ (S ₆)	—	—	—	—
未区分地	—	—	—	—
合計	0.41	429.30	2,678.17	4,005.27

(单位：Km)

5 類 地	6 類 地	7 類 地	8 類 地 (未区分地)	合 計
627.65	21851	5317	—	330311
14.65	433	122	—	2570.83
378	456	349	—	964.00
1.17	219	1.13	—	1211.06
—	—	—	5600	5600
64725	22959	59.01	5600	8105.00

(单位：Km)

5 類 地	6 類 地	7 類 地	8 類 地 (未区分地)	合 計
—	273	463	—	1523.40
4.93	20.44	2.17	—	642.01
11.73	22.56	4.49	—	1576.44
48.15	72.81	15.17	—	3581.11
582.44	111.05	17.21	—	710.70
—	—	15.34	—	15.34
—	—	—	5600	5600
64725	22959	59.01	5600	8105.00

3-2-3. 土地利用可能性分級と標高区分との関連

土地利用可能性分級 標高区分	1 類 地	2 類 地	3 類 地	4 類 地
低 暖 地 帯 (H ₁)	0.41	42930	2,639.31	3,752.96
山 間 地 帯 (H ₂)	—	—	4786	25231
高 冷 地 帯 (H ₃)	—	—	—	—
生産限界外地帯(H ₄)	—	—	—	—
未 区 分	—	—	—	—
合 計	0.41	42930	2,678.17	4,005.27

3-2-4. 土地利用可能性分級と土壤生産力可能性との関連

土地利用可能性分級 土壤生産力可能性	1 類 地	2 類 地	3 類 地	4 類 地
はなはだ良い(P ₁)	0.41	—	643	981
やや良い(P ₂)	—	42930	1,119.96	3,175.93
やや劣る(P ₃)	—	—	1,151.78	2,177.2
劣る(P ₄)	—	—	—	601.81
はなはだ劣る(P ₅)	—	—	—	—
岩 石 地(P ₆)	—	—	—	—
未 区 分 地	—	—	—	—
合 計	0.41	42930	2,678.17	4,005.27

(單位：Km²)

5 類 地	6 類 地	7 類 地	8 類 地 (未区分地)	合 計
429.76	49.31	20.88	—	731.293
174.56	3.33	3.86	—	481.92
42.93	176.95	11.74	—	231.61
—	—	22.54	—	22.54
—	—	—	56.00	56.00
647.25	229.59	59.01	56.00	8105.00

(單位：Km²)

5 類 地	6 類 地	7 類 地	8 類 地 (未区分地)	合 計
1.30	—	—	—	17.95
555.18	22.01	2.61	—	5304.99
28.17	54.63	7.14	—	1859.44
62.60	98.21	9.96	—	772.58
—	54.74	1.84	—	56.58
—	—	37.46	—	37.46
—	—	—	56.00	56.00
647.25	229.59	59.01	56.00	8105.00

3-3. 土地利用可能性分級別主要地域の概要

地域名		1 類 地	2 類 地	3 類 地
		幌 延	稚 内	稚 内
地 形	傾 斜	0° ~ 3°	0° ~ 3°	0° ~ 15°
	谷 密 度	(13 ~ 15)	(13 ~ 24)	(13 ~ 26)
	標 高	0 m ~ 400 m	0 m ~ 400 m	0 m ~ 600 m
	(植栽限界)			
表 層 地 質	岩 石 の 種 類	砂岩泥岩互層、砂岩、泥岩、ジャモン岩	砂岩泥岩互層、砂岩、泥岩、砂礫	
	岩 石 の か た さ 時 代	軟 - 硬 第 3 紀 - 白亜紀	軟 - 硬 第 3 紀 - 白亜紀	軟 - 硬 第 3 紀 - 白亜紀
土 壤	農 地	土壌統群 産力可能性 分 級	褐色低地土壌Ⅱ	褐色森林土壌Ⅱ 細粒灰色低地土壌 くろぼく土壌b(Ⅲ)
	林 地	土 壌 統 群 地 位 級	褐色森林土壌Ⅱ (Ⅰ)	褐色森林土壌Ⅱ (Ⅰ~Ⅱ)
水 利 用	地 表 水	○	○	○
	地 下 水	○	○	○
	天 水	×	×	×
気 候 区 分		日本海側北部	オホーツク海側北部	
面 積	土地利用可能性類 地別地域内合計(A)	57600	76800	76800
	当該地域類地別 面 積 (B)	0.41	4.025	43436
	% (B / A)	0.07	5.2	566

4 類 地	5 類 地	6 類 地	7 類 地	備 考
小 平	遠 別	増 毛	増 毛	
0° ~ 30° (10 ~ 28) 0 m ~ 600 m	0° ~ 40° (14 ~ 21) 0 m ~ 1,000 m	0° ~ 40° (4 ~ 16) 0 m ~ 1,000 m	8° ~ 40° < (8 ~ 18) 0 m ~ 1,000 m <	
砂岩泥岩互層、泥岩、 軟 - 硬 第3紀 - 白亜紀	砂岩泥岩互層、砂岩、 泥岩、砂礫 軟 - 硬 第3紀 - 白亜紀	安山岩、火山角礫岩、 砂岩、泥岩、 砂岩泥岩互層 軟 - 硬 第3紀 - 白亜紀	安山岩、火山角礫岩、 硬 第3紀	
砂丘未熟土壌 灰色台地土壌(Ⅳ)				
褐色森林土壌Ⅱ (Ⅰ~Ⅱ)	褐色森林土壌Ⅱ (Ⅰ~Ⅱ)	褐色森林土壌 - ポド ゾル化土壌(Ⅲ) 暗色系褐色森林土壌 - ポドゾル化土壌(Ⅳ)	高山性岩屑土壌 - 岩石地(0) 暗色系褐色森林土壌 - ポドゾル化土壌(Ⅳ)	
○ ○ ×	○ ○ ×	○ ○ ×	○ × ×	
日 本 海 側 北 部				
62700	59300	37300	37300	
44514	13227	7053	2646	
710	223	189	71	

3-4 市町村別土地利用可能性分級別内訳

市町村名	土地利用の現況														備考	
	水田		畑				草地		林地				空地・その他			
	面積 占	平均収 穫量率	普通畑		樹園地		土地利用 占有	草地樹種 および 平均収 穫率	人工林		天然林		土地利用 占有			
			土地 利用 占有	主要作物 および平均 収穫量率	土地 利用 占有	主要樹種 および平均 収穫量率			土地 利用 占有	主要樹種 および平均 収穫量率	土地 利用 占有	主要樹種 および平均 収穫量率				
1	-														豊別地区国営 農地開発事業	
2	112 122	40						D	トマン 90	A	針葉樹 90 広葉樹 90					
3	118 128 182 188	484					D	牧草 110	D	カマツ 70 トマン 80	C	針葉樹 80 広葉樹 80	ゴルフ場			
4	114 124 184 142 148 144	277					D	牧草 108	D	カマツ	B	広葉樹 70 針葉樹 70	飛行場 自衛隊用地	D		
5	-															
6	125 185 145 285	8							D	トマン 80	A	広葉樹 40				
7	-															
8	9												シュブントウ沼			
市町村計	768															
1	-														浅茅野第二国 営農地開発事 業	
2	112 122	18						D	牧草 107		A	広葉樹 90				
3	118 128 182 188	844						D	牧草 100	D	カマツ 75 トマン 80	C	針葉樹 80 広葉樹 80	自衛隊用地 原野		D
4	114 124 184 141 142 148	220						D	牧草 105	D	トマン 70 カマツ 55	B	針葉樹 70 広葉樹 70			
5	-															
6	-															
7	-															
8	8												ボロ沼			
市町村計	585															

注1 8類地は、湖沼、河川、市街地である。

注2 土地利用占有率は、次の区分による。

A(75%以上)、B(74~50%)、C(49~25%)、D(25%未満)、(D)は5%未満であるが、特記すべきものを示した。

注3 水田、畑、草地の平均収穫量率については、農林統計を参考に関係機関と協議して推定した。

注4 林地の樹種及び平均収穫量率は、縮尺20万分の1土地利用現況図(富嶺・宗谷地域)及び現存植生図(昭和50・51年)を参考に関係機関と協議して推定した。

市町村名	領地区分		土地利用の現況												備考	
			水田		畑				草地		林地					空地・その他
	面積 Km ²	土地利用 占有率	平均収 穫量率	普通畑		樹園地		土地利用 占有率	草地の種 類および 平均収 穫量率	人工林		天然林		土地利用 占有率		
				土地利用 占有率	主要作物 および平均 収穫量率	土地利用 占有率	主要樹種 および平均 収穫量率			土地利用 占有率	主要樹種 および平均 収穫量率	土地利用 占有率	主要樹種 および平均 収穫量率			
1		-														領別地区国営 農地開発事業
2	112 122	12					D	牧草 105			A	広葉樹 95				
浜 8	118 128 188 182 282	121					D	牧草 105	D	トドマツ 85	C	針葉樹 85 広葉樹 85				
領 4	114 124 184 142 148 144 288 242	234					D	牧草 102	C	トドマツ 70	B	針葉樹 70 広葉樹 70				
別 5	152 244 252 848	16									A	広葉樹 55				
町 6	155 858	4									A	広葉樹 85				
7		-														
8		15												クッチャロ湖		
市町村計		402														
1		-														豊平地区直轄 明葉排水事業
2	112 122	14		(D)	ビート 80		B	牧草 115	C	カラマツ 95						
中 8	118 128 182 188 282	112		(D)	ビート 80		D	牧草 110	D	カラマツ 90 トドマツ 100	C	針葉樹 95 広葉樹 90				
領 4	114 124 184 142 148 144 242 248	172		(D)	ビート 78		D	牧草 110	D	カラマツ 75 トドマツ 85	B	針葉樹 80 広葉樹 80				
別 5	152 154 284 244 252 258 254	94							D	トドマツ 65	A	針葉樹 65 広葉樹 65				
町 6	858	1					A	牧草 105								
7	162 260 262 264	4									A	広葉樹 25				
8		1														
市町村計		898														

市町村名	類地区分		土地利用の現況												備考			
	面積 ㎡	土地 利用 占有率	水田				畑				草地		林地				空地・その他 土地利用 占有率	
			平均 収 穫 量 率	普通畑		樹園地		土 地 利 用 占 有 率	草 地 の 種 類 お よ び 平 均 収 穫 量 率	人工林		天然林						
				土 地 利 用 占 有 率	主 要 作 物 お よ び 平 均 収 穫 量 率	土 地 利 用 占 有 率	主 要 樹 種 お よ び 平 均 収 穫 量 率			土 地 利 用 占 有 率	主 要 樹 種 お よ び 平 均 収 穫 量 率	土 地 利 用 占 有 率	主 要 樹 種 お よ び 平 均 収 穫 量 率					
枝	1	-																概別地区国営 農地開発事業
2	112 122	21						D	牧草 110				A	広葉樹 105				
3	118 128 181 182 188 282	289						D	牧草 110	D	カラマツ トドマン 100		A	針葉樹 95 広葉樹 95				
4	114 124 184 142 148 242	287						D	牧草 110	D	カラマツ トドマン 80		D	針葉樹 80 広葉樹 80				
5	152 284 882 842	4								C	トドマン 60		A	針葉樹 60 広葉樹 60				
6	185 145 155 884 844	6											A	針葉樹 50				
7	150	1											A	針葉樹 50				
8		2																
市町村計		510																
歌	1	-						A	牧草 116								ベンケナイ地 区直轄明渠排 水事業	
2	112 122	88		(D)	はげいし 90			D	牧草 110									
3	118 128 182 188 212 282	188		(D)	はげいし 70			D	牧草 110	D	カラマツ トドマン 105		B	針葉樹 100 広葉樹 100				
4	114 124 142 148 242	270		(D)	ビート 78					D	カラマツ トドマン 85		B	針葉樹 85 広葉樹 85				
5	152 244 252 882 842 848	77								D	トドマン 60		B	針葉樹 60 広葉樹 60				
6	884 844 852 858 854	56											A	広葉樹 30				
7	444	1																
8		1																
市町村計		621																

市町村名	類地区区分および包含される示性式	面積 ha	土地利用の現況														備考		
			水田		畑地				草地		林地				空地・その他				
			土地利用 占有率	平均収 穫量率	土地利用 占有率	主要作物 および平均 収穫量率	土地利用 占有率	主要樹種 および平均 収穫量率	土地利用 占有率	草地の種類 および平均 収穫量率	土地利用 占有率	主要樹種 および平均 収穫量率	土地利用 占有率	主要樹種 および平均 収穫量率	土地利用 占有率	土地利用 占有率			
1	-																	先沼地区直轄 明沼排水事業 カボベツ第一 地区国営総合 農地開発事業	
2	112 122	2.8						D	牧草 115	C	トドマツ 95	B	広葉樹 95						
8	118 128 182 188	28.9						D	牧草 110	D	カラマツ トドマツ 90	C	広葉樹 85	原野	D				
4	114 124 142 148 144	20.2						D	牧草 105	D	トドマツ 75	A	広葉樹 70	原野	D				
5	-																		
6	-																		
7	-																		
8	5																先沼 ベンケ沼		
市町村計		52.4																	
1	-																		
2	-																		
8	128 182 188	1.4								D	カラマツ 60 トドマツ 70	A	針葉樹 70 広葉樹 70						
4	124 184 142 148 144 248	5.6				(D) 野菜 60				D	カラマツ 40	B	針葉樹 55 広葉樹 60						
5	152	0																	
6	125 185 145 155	8															原野	A	
7	120 140	4															原野	A	
8	0																		
市町村計		8.2																	

市町	類地区分 及び包含される示性式	土地利用の現況											備考				
		水田		畑			草地		林			空地・その他					
		面積 占利率	平均収 穫量	普通畑 占利率	作物畑 占利率	樹園地 占利率	土地利用 占利率	草地の種 類および 平均収 穫量	人工林 占利率	天然林 占利率	主要樹種 および平均 収穫量			土地利用 占利率			
利	1	—															
	2	112 122	80									D	トドマツ 80	A	針葉樹 75 広葉樹 80		
	3	113 123 132 133 222 223	17								(D)	牧草 80				原野	A
況	4	114 124 142 223 233	9											A	針葉樹 50 広葉樹 55		飛行場
	5	333	1											A	針葉樹 50		
	6	115 125 345	7											A	針葉樹 40		
町	7	110 330 340 350 360 450 460	10											A	広葉樹 15		
	8		1														
	市町村計	75															
東	1	—															
	2	112 122	81											A	針葉樹 80		
利	3	113 123 132 133 232	40								(D)	牧草 80		A	針葉樹 70 広葉樹 80		
	4	114 142 283 242 243	18											A	針葉樹 60 広葉樹 65		
況	5	343	4											A	広葉樹 50		
町	6	115 125 185 353	8											A	針葉樹 45		
	7	110 120 340 350 360 363 460	11											A	針葉樹 15 広葉樹 15		
	8		1														
	市町村計	108															

市町 村名	類地区分		土地利用の現況													備考
	面積 占	占	水田		畑				草地		林地				空地・その他 土地利用 占	
			土利 占	平均 収	普通 畑	樹 園地	土利 占	草地 種 占	人工 林	天然 林	土利 占	主要 樹種				
類地区分お よび包含さ れる示性式	面積 占	土利 占	平均 収	普通 畑	樹 園地	土利 占	草地 種 占	人工 林	天然 林	土利 占	主要 樹種	土利 占	主要 樹種	空地・その他 土地利用 占		
1	-															沖内地区かん がい排水事業
2	112 122	30	B	水稻 95						D	カラマン 95 トドマン 100	C	広葉樹 100			
小	113 123 181 182 183 282	69	D	水稻 95			(D)	牧草 85	D	カラマン 85 トドマン 95	A	広葉樹 85				
4	141 142 124 144 184 242 243	445	D	水稻 90	(D)	はげれし 小豆 55 大豆 100 大豆 85		(D)	牧草 80	D	カラマン 70 トドマン 75	A	広葉樹 70 針葉樹(トド) 75			
5	151 152 153 154 244 252	59								D	トドマン 55	A	広葉樹 50 針葉樹(トド) 55			
町	145 155 245 852 854	28										A	広葉樹 80			
7	-															
8	1															
市町村計		627														
1	-															九重地区ほ場 整備事業
2	112	16	A	水稻 95	D	はげれし 70 ビート 100 牧草 140										
町	113 123 181 182 183	60	D	水稻 90	D	とうもろこし 70 牧草 140		D	牧草 140	D	カラマン 75 トドマン 90	C	広葉樹 85 針葉樹(トド) 85			
4	141 142 143 114 124 184 144 242	829	D	水稻 90				D	牧草 185	D	カラマン 60 トドマン 80	A	広葉樹 70 針葉樹(トド) 75			
5	152 153 154 252	40										A	広葉樹 50			
町	145 852 854	8										A	広葉樹 80			
7	-															
8	1															
市町村計		454														

市町村名	地区区分	土地利用の現況														備考
		水田		畑				草地		林地				空地・その他		
		土地 利用 占有率	平均 収 穫 量 率	普通 畑	樹園地	土 地 利 用 占 有 率	主要樹種 および平均 収穫量率	土 地 利 用 占 有 率	草地の種類 および平均 収穫量率	人 工 林	天 然 林	土 地 利 用 占 有 率	主要樹種 および平均 収穫量率	土地 利用 占有率	備考	
		面積 [㎡]		土 地 利 用 占 有 率	主要作物 および平均 収穫量率	土 地 利 用 占 有 率	主要樹種 および平均 収穫量率	土 地 利 用 占 有 率	草地の種類 および平均 収穫量率	土 地 利 用 占 有 率	主要樹種 および平均 収穫量率	土 地 利 用 占 有 率	主要樹種 および平均 収穫量率	土地 利用 占有率		
羽 幌 町	1	—													羽幌二股地区 直轄かんがい 排水事業	
	2	84	B	水稻 100	(D)	ばら 75		D	牧草 130	D	カラマツ 90	D	広葉樹 100			
	3	118 128 132 133	42	C	水稻 90	(D)	ばら 60		D	牧草 180	D	カラマツ 80 トドマツ 90	C	広葉樹 90		
	4	114 124 134 142 143 144 242	386	D	水稻 90				D	牧草 120	D	カラマツ 60 トドマツ 80	C	針葉樹(トド) 80 広葉樹 75		ゴルフ場
	5	152 153 154 252 342	58								D	トドマツ 60	A	広葉樹 50		
	6	245 344 352	7										A	広葉樹 80		
	7	130	2													
	8		8													
市町村計		477														
初 山 別 村	1	—													南明里地区 区域整備事業	
	2	112 122	11	A	水稻 75							D	広葉樹 90			
	3	118 128 132 133	53	D	水稻 75	(D)	ビート 85		D	牧草 120	C	カラマツ 70 トドマツ 90	B	針葉樹(トド) 85 広葉樹 85		
	4	114 124 134 142 143 242	177	D	水稻 72	(D)	ビート 80		D	牧草 115	D	カラマツ 50 トドマツ 75	C	針葉樹(トド) 75 広葉樹 70		
	5	152 154 252	39										A	針葉樹(トド) 55 広葉樹 50		
	6	145	1													
	7		—													
	8		1													
市町村計		282														

市町 村名	類地区分 および包含さ れる示性式	土 地 利 用 の 現 況														備 考			
		水 田		畑				草 地		林 地				空地・その他					
		土 地 利 用 占 有 率	平 均 収 獲 量 等	土 地 利 用 占 有 率	主 要 樹 種 お よ び 平 均 収 獲 量 等	土 地 利 用 占 有 率	主 要 樹 種 お よ び 平 均 収 獲 量 等	土 地 利 用 占 有 率	地 種 お よ び 平 均 収 獲 量 等	土 地 利 用 占 有 率	主 要 樹 種 お よ び 平 均 収 獲 量 等	土 地 利 用 占 有 率	主 要 樹 種 お よ び 平 均 収 獲 量 等	土 地 利 用 占 有 率					
															土 地 利 用 占 有 率		主 要 樹 種 お よ び 平 均 収 獲 量 等	土 地 利 用 占 有 率	主 要 樹 種 お よ び 平 均 収 獲 量 等
1	—															啓明地区国営 農地開発事業			
2	112	2.2	A	水稻	30								D	広葉樹	95				
3	113 123 132 133	14.9	(D)	水稻	30	D	ビート および はげみし	70 75				B	カラマツ トドマツ	70 85	A		針葉樹 広葉樹	80 80	
4	114 134 142 143 144 242	26.9				D	ビート	85			D	カラマツ トドマツ	50 75	A	針葉樹 広葉樹		75 70		
5	152 154	18.2									D	トドマツ	60	A	針葉樹 広葉樹		55 50		
6	20													A	針葉樹 広葉樹		80 80		
7	—																		
8	1																		
市町村計		59.8																	
1	—															天塩地区草地 開発事業			
2	112 122	8.2								(D)	牧草	105	C	カラマツ	85		B	針葉樹 広葉樹	90 95
3	113 123 132 133	18.3				D	ビート	80		C	牧草	100	D	カラマツ トドマツ	70 85		B	針葉樹 広葉樹	80 75
4	114 124 134 142 143	18.5								D	牧草	98	C	カラマツ	70		B	針葉樹 広葉樹	70 65
5	152	4													A		広葉樹	50	
6	—																		
7	—																		
8	1																		
市町村計		85.5																	

市町	類地区分 及び包含される示性式	面積 km ²	土地利用の現況											備考				
			水田		畑				草地		林				空地・その他 土地利用 占有率			
			土地利用 占有率	平均収 穫量	普通畑 土地利用 占有率	主要作物 および平均 収穫量	樹園地 土地利用 占有率	主要樹種 および平均 収穫量	土地利用 占有率	草地の種 類および 平均収穫 量	人工林 土地利用 占有率	主要樹種 および平均 収穫量	天然林 土地利用 占有率			主要樹種 および平均 収穫量		
1	111	0																
2	112 122	86			(D)	ビート 80			D	牧草 107	D	カラマツ 80	A	広葉樹 95				
8	113 123 132 133	193			(D)	ビート 80			D	牧草 105	D	カラマツ 70 トドマン 80	C	針葉樹 80 広葉樹 80	原野	C		
4	114 124 134 142 143 144 242	280							D	牧草 105	D	カラマツ 55 トドマン 70	C	針葉樹 70 広葉樹 70	原野	C		
5	152 154 234 244 254	59									D	トドマン 50	A	広葉樹 45				
町	115	1																
7	-	-																
8	5																バンク沼 バンク沼	
市町村計		574																
1																		
2																		
8																		
4																		
5																		
6																		
7																		
8																		
市町村計																		

